Dell Wyse Management Suite

バージョン 2.x クイック スタート ガイド

メモ、注意、警告

メモ: 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告: 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

March 2020

Rev. A00

目次

1

はじめに

Wyse Management Suite は、Dell Wyse Thin Client を一元で設定、監視、管理、最適化するための次世代管理ソリューションです。高い機能性、パフォーマンス、使いやすさを誇る新しい Suite では、Thin Client の導入および管理を簡単に行うことができます。クラウドやオンプレミスでの導入、モバイルアプリケーションによる場所を問わない管理、BIOS 設定やポートロックダウンなどのセキュリティの向上など、最新機能オプションも備えています。その他にも、デバイスの検出 / 登録、資産 / インベントリ管理、設定管理、オペレーティングシステム / アプリケーションの導入、リアルタイムコマンド、監視、アラート、レポート、エンドポイントのトラブルシューティングなどの機能があります。

エディション

Wyse Management Suite は、以下のエディションで利用できます。

- **Standard (無料)** - Wyse Management Suite の Standard Edition はオンプレミス導入でのみ使用できます。Standard Edition の使用にライセンスキーは必要ありません。Standard Edition は小規模および中規模ビジネスに適しています。
- **Pro (有料)** - Wyse Management Suite の Pro Edition は、プライベートおよびパブリックの両方のクラウド導入で利用できます。Pro Edition にはサブスクリプションベースのライセンスが使用され、ライセンスキーが必要です。Pro ソリューションでは、オンプレミスとクラウドのハイブリッドモデルを採用して、両方にライセンスを適用できます。Pro On-premise Edition は、小規模、中規模、大規模の企業に適しています。クラウド導入の場合は、企業ネットワーク以外で使用しているデバイス (ホームオフィス、サードパーティ、パートナー、モバイルシンクライアントなど) を Pro Edition で管理できます。Wyse Management Suite の Pro Edition には、次のような機能もあります。
  - 重要なアラート、通知を表示し、リアルタイムでコマンドを送信するモバイルアプリケーション
  - ロールベース管理のための二要素認証および Active Directory 認証によるセキュリティの強化
  - 詳細なアプリポリシーとレポート作成

  メモ:
  - **クラウドサービスは、米国およびドイツでホストされます。データレジデンシーに制限のある国の場合、Wyse Management Suite Pro Edition のクラウドベースサービスを利用できない可能性があります。**
  - **データレジデンシーに制限がある場合は、Wyse Management Suite Pro Edition のオンプレミスバージョンをお勧めします。**

Standard Edition および Pro Edition でサポートされる機能の詳細については、「機能マトリックス」を参照してください。

2

Wyse Management Suite を開始する

このセクションでは、全般的な機能に関する情報を提供し、管理者として取り組む上で役立つ情報と、Wyse Management Suite ソフトウェアから Thin Client を管理する方法について説明します。

トピック：

パブリック クラウドでの Wyse Management Suite へのログイン

Wyse Management Suite コンソールにログインするには、お使いのシステムにサポートされている Web ブラウザーがインストールされている必要があります。Wyse Management Suite コンソールにログインするには、次の操作を行います。

1. Wyse Management Suite のパブリッククラウド（SaaS）エディションには、次のいずれかのリンクを使用してアクセスします。
   - **米国データ センター**：us1.wysmanagermentsuite.com/ccm-web
   - **EU データ センター**：eu1.wysmanagermentsuite.com/ccm-web
2. ユーザー名とパスワードを入力します。
3. **サインイン** をクリックします。

メモ: 初めて Wyse Management Suite コンソールにログインしたとき、新しいユーザーが追加された場合またはユーザーライセンスがアップデートされた場合は、契約条件 ページが表示されます。契約条件を読み、それぞれのチェックボックスを選択し、同意する をクリックします。

メモ: www.wysemanagementsuite.com で Wyse Management Suite の試用版に登録するか、サブスクリプションを購入すると、ログイン資格情報を受け取ります。Wyse Management Suite サブスクリプションは、デルの営業チームまたはローカルのデルパートナーから購入できます。詳細については、www.wysemanagementsuite.com を参照してください。

メモ: パブリッククラウド上で Wyse Management Suite の Pro エディションを使用する際は、外部へのアクセスが可能なリポジトリを DMZ 搭載のサーバ上にインストールする必要があります。また、サーバーの完全修飾ドメイン名（FQDN）をパブリック DNS に登録する必要があります。

パスワードの変更

ログインパスワードを変更するには、管理コンソールの右上にあるアカウントのリンクをクリックしてから、**パスワードの変更** をクリックします。

メモ: 初回ログイン後は、パスワードを変更することをお勧めします。追加の管理者のデフォルト ユーザー名およびパスワードは、Wyse Management Suite のアカウント所有者が作成します。

Wyse Management Suite からのログアウト

管理コンソールからログアウトするには、管理コンソールの右上にあるアカウントのリンクをクリックしてから、**サインアウト** をクリックしてください。

プライベート クラウドに Wyse Management Suite を導入するための前提条件

表 1. 前提条件

説明	デバイス 1 万台以下	デバイス 5 万台以下	デバイス 12 万台以下	Wyse Management Suite - ソフトウェアリポジトリ
オペレーティングシステム	Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016、または Windows Server 2019 対応言語パック - 英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、スペイン語、日本語、中国語（プレビュー リリース）			
最小ディスク容量	40 GB	120 GB	200 GB	120 GB
最小メモリ（RAM）	8 GB	16 GB	32 GB	16 GB
最小 CPU 要件	4	4	16	4
ネットワーク通信ポート	Wyse Management Suite インストーラは、伝送制御プロトコル（TCP）ポート 443、8080、および 1883 をファイアウォールの例外リストに追加します。これらのポートは、Wyse Management Suite コンソールにアクセスするため、およびシン クライアントにプッシュ通知を送信するために追加されます。 ・ TCP 443 - HTTPS 通信 ・ TCP 1883 - MQTT 通信 ・ TCP 3306 - MariaDB（リモートの場合はオプション） ・ TCP 27017 - MongoDB（リモートの場合はオプション） ・ TCP 11211 — Memcached ・ TCP 5172、49159 — エンドユーザー管理ソフトウェア開発キット（EMSDK）— Teradici デバイスを管理する場合にのみ必要なオプション インストーラーで使用されるデフォルト ポートは、インストール時に別のポートに変更されている可能性があります。			Wyse Management Suite リポジトリインストーラは、TCP ポート 443 および 8080 をファイアウォールの例外リストに追加します。ポートは、Wyse Management Suite によって管理されているオペレーティングシステムのイメージとアプリケーションイメージにアクセスするために追加されます。
対応ブラウザ	Internet Explorer バージョン 11 Google Chrome バージョン 58.0 以降 Mozilla Firefox バージョン 52.0 以降 Windows の Edge ブラウザ - 英語版のみ			

- Overlay Optimizer バージョン 1.0 およびインストール スクリプトは、Wyse Management Suite インストーラーに付属しています。Overlay Optimizer を Wyse Management Suite で有効にするには、管理者がスクリプトを実行する必要があります。
- Dell Secure Client バージョン 1.0 のインストール スクリプトは、Wyse Management Suite インストーラーに付属しています。管理者は、スクリプトを実行して、Dell Secure Client を Wyse Management Suite で有効にする必要があります。

メモ: WMS.exe と WMS_Repo.exe 2 台の異なるサーバにインストールする必要があります。パブリッククラウドの場合、Wyse Management Suite のリモートリポジトリをインストールする必要があります。プライベートクラウドの場合、Wyse Management Suite のリモートリポジトリとローカルリポジトリをインストールする必要があります。ソフトウェアは、物理または仮想マシンにインストールすることができます。またソフトウェアのリポジトリーと Wyse Management Suite サーバーが同じオペレーティング システムを使用している必要はありません。詳細については、「ファイルリポジトリへのアクセス」を参照してください。

3

Wyse Management Suite のプライベートクラウドへのインストール

プライベートクラウド上に Wyse Management Suite をセットアップするには、次の要件を満たす必要があります。

- 必要なすべてのハードウェアとソフトウェアを入手して設定します。Wyse Management Suite ソフトウェアは downloads.dell.com/wyse/wms からダウンロードできます。
- 1 台以上のサーバマシンに、対応サーバオペレーティングシステムをインストールします。
- システムの現在の Microsoft サービスパック、パッチ、アップデートが最新であることを確認します。
- 対応ブラウザの最新バージョンがインストールされていることを確認します。
- インストールに関連するすべてのシステムの管理者権限と管理者の資格情報を取得します。
- Pro 機能の場合は、有効な Wyse Management Suite ライセンスを取得します。Standard Edition にはライセンスは必要ありません。

Wyse Management Suite の簡易インストール構成は、次のとおりです。

- Wyse Management Suite サーバ (アプリケーションおよびオペレーティングシステムイメージのためのリポジトリを含む)
- オプション：追加の Wyse Management Suite リポジトリサーバ (追加イメージ、アプリケーション、AD 認証のためのリポジトリ)
- オプション：www.geotrust.com/ などの認証局の HTTPS 証明書。

プライベートクラウドに Wyse Management Suite をインストールするには、次の操作を行います。

1. インストーラパッケージをダブルクリックします。
2. [**ようこそ**] 画面のライセンス契約を読み、[**次へ**] をクリックします。
3. **セットアップタイプ** ページで、インストールするコンポーネントを選択して **次へ** をクリックします。利用できるオプションは次のとおりです。
   - Wyse Management Suite：Wyse Management Suite コンポーネントには、2 つのセットアップタイプがあります。
     - 通常：必要なユーザー操作は最低限であり、組み込みデータベースをインストールします。
     - カスタム：最大限のユーザー操作を必要する上級ユーザー向けです。詳細については、「カスタムインストール」を参照してください。
   - Teradici EM SDK：Teradici EM SDK コンポーネントはサービスとしてインストールされます。

   メモ: Internet Explorer セキュリティ強化の構成 機能が有効になっている場合は、通知ウィンドウが表示されます。この機能を無効化するには、IE セキュリティ強化の構成 チェックボックスを選択します (セットアップタイプ ページ)。

   以前のインストールで Wyse Management Suite とともに EM SDK がサーバーにインストールされている場合、Teradici EM SDK コンポーネントが自動的にアップデートされます。
4. **通常** を **セットアップタイプ** として選択します。組み込みデータベースの新しい **データベース資格情報** を入力します。さらに新しい **管理者資格情報** を入力して、**次へ** をクリックします。

   メモ: インストール後の Wyse Management Suite ウェブコンソールへのログイン時に管理者資格情報が必要です。
5. **設定** ページで、CIFS ユーザーの共有フォルダとアクセス権を設定します。利用できるオプションは次のとおりです。
   - 既存ユーザーを使用：このオプションを選択して、既存ユーザーの資格情報を検証します。
   - 新規ユーザーを作成：このオプションを選択し、資格情報を入力して新規ユーザーを作成します。

   メモ: セットアップタイプ ページで Teradici EM SDK オプションが有効になっている場合は、設定 ページで Teradici サーバのポートを設定することができます。
6. ソフトウェアをインストールするパスとローカルテナントファイルリポジトリをインストールするパスを選択して、**次へ** クリックします。

   ソフトウェアのインストール先フォルダのデフォルトパスは、`C:\Program Files\DELL\WMS` です。
7. **次へ** をクリックします。
   プレインストールの概要 ページが表示されます。
8. **次へ** をクリックして、ソフトウェアをインストールします。

インストーラがインストールを完了するまで 4 ~ 5 分かかります。システムに VC - ランタイムなどの依存コンポーネントがインストールされていない場合は、さらに長い時間がかかる場合があります。

9. **起動** をクリックして、Wyse Management Suite ウェブコンソールを開きます。
10. ウェブコンソールで、**開始する** をクリックします。

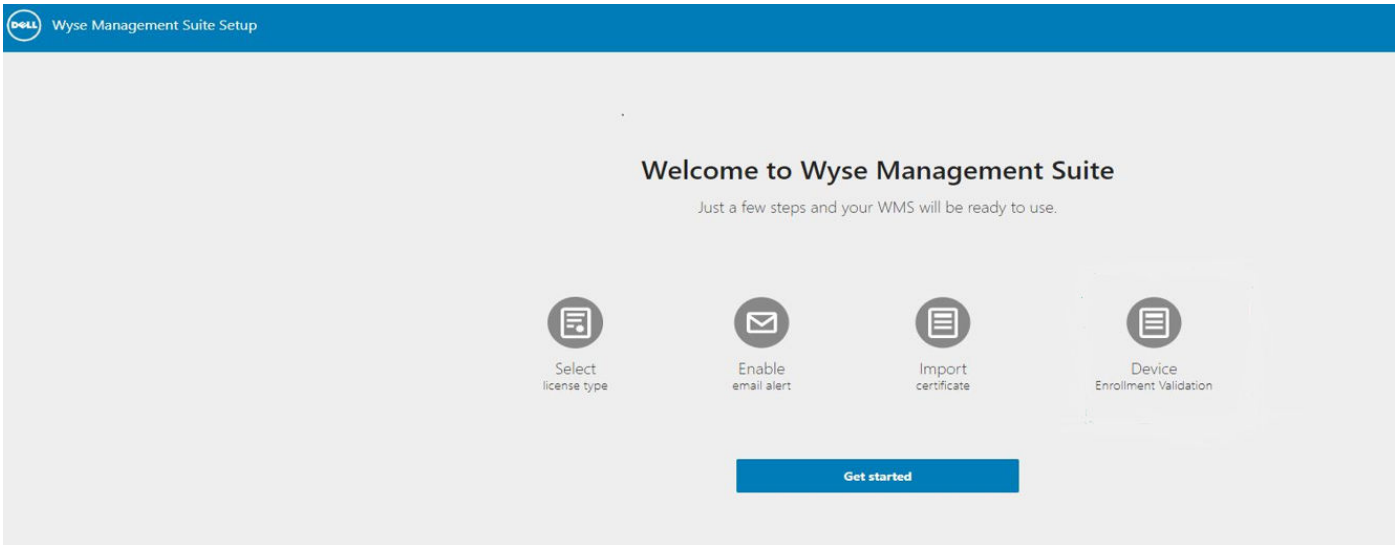

図 1. ようこそページ

11. 使用するライセンスを選択します。
    - ライセンスタイプに **標準** を選択して **次へ** をクリックすると、Wyse Management Suite の標準インストールが実行されます。
    - ライセンスタイプに **Pro** を選択した場合は、有効な Wyse Management Suite ライセンスをインポートする必要があります。Wyse Management Suite ライセンスをインポートするには、サーバがインターネットに接続している場合は、要求された情報を入力します。Wyse Management Suite パブリッククラウドポータルにログインするか、ライセンスキーフィールドにキーを入力して、ライセンスキーを生成することもできます。

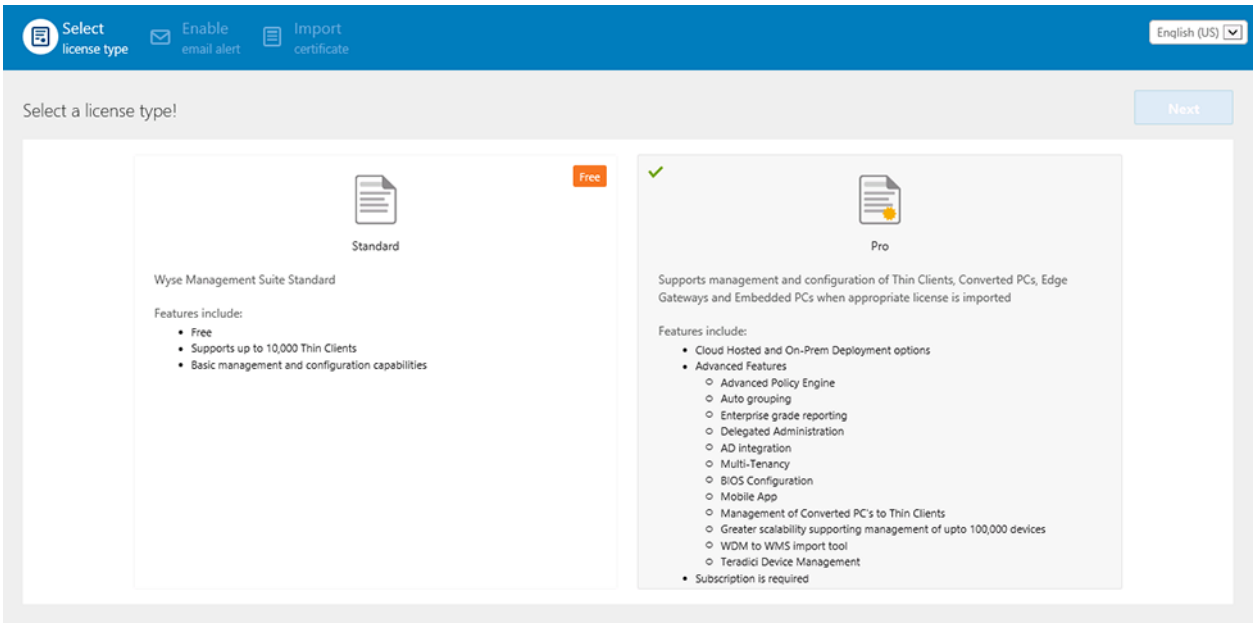

図 2. ライセンスタイプ

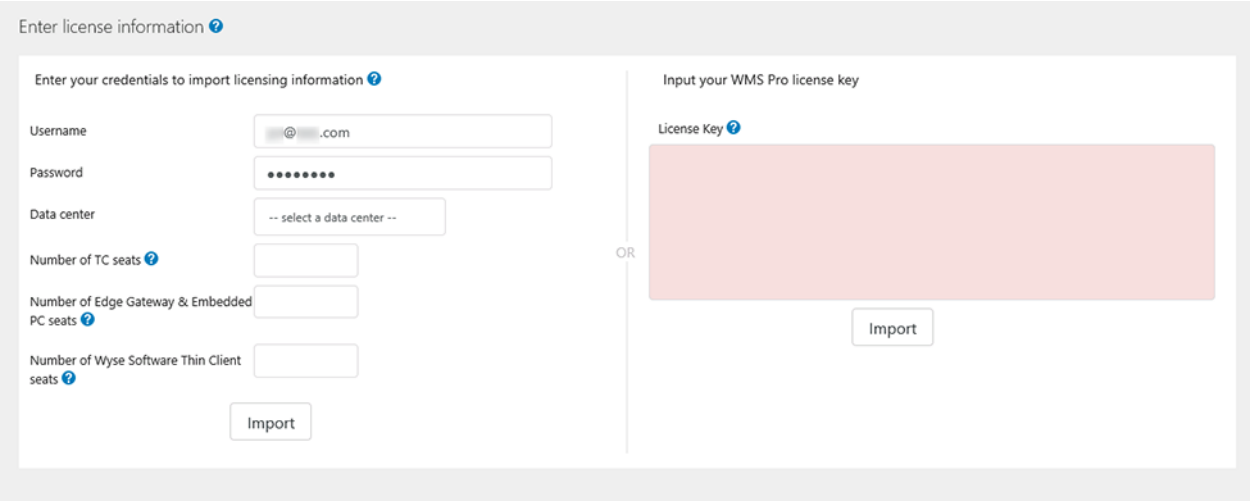

図 3. ライセンス情報

Wyse Management Suite クラウドポータルからライセンスキーをエクスポートするには、次の操作を行います。

a. 次のいずれかのリンクから、Wyse Management Suite クラウドポータルにログインします。
   - 米国データセンター：us1.wysmanagermentsuite.com/ccm-web
   - EU データセンター：eu1.wysmanagermentsuite.com/ccm-web

b. **[ポータル管理]** > **[サブスクリプション]** の順に移動します。

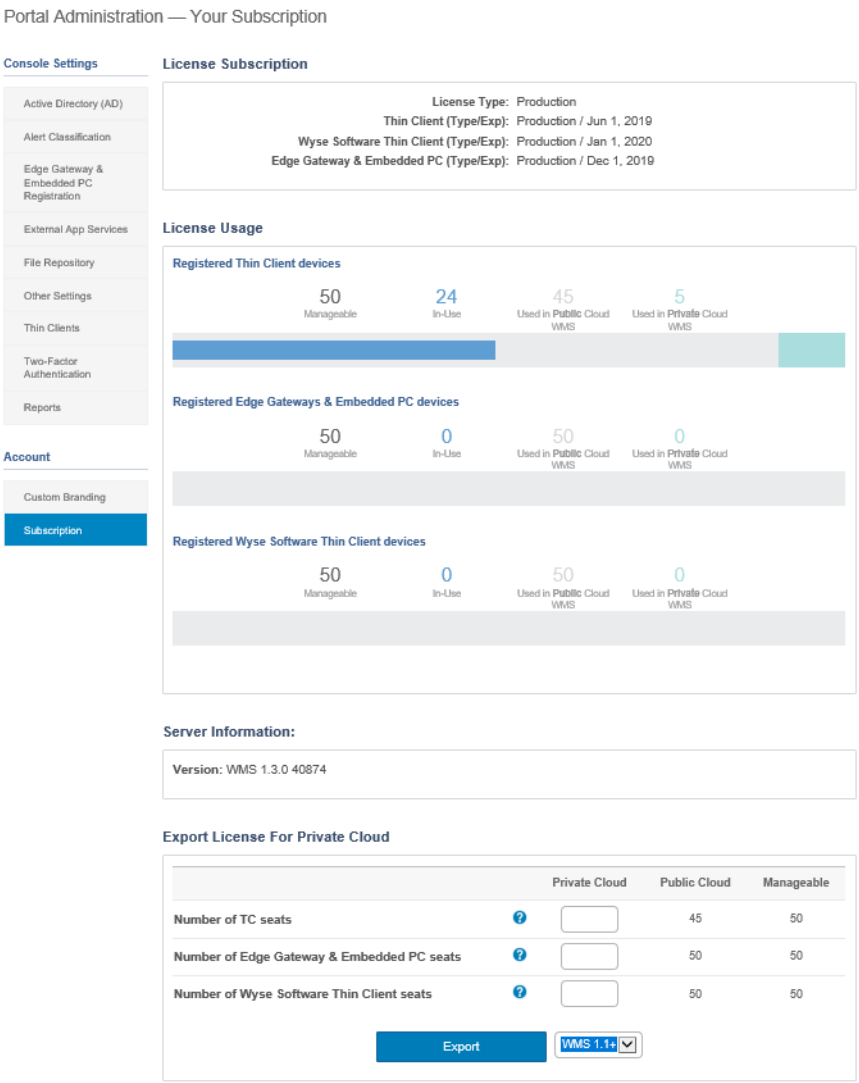

図 4. ポータル管理

c. Thin Client のシート数を入力します。
d. **エクスポート** をクリックします。

メモ: ライセンスをエクスポートするため、WMS 1.1 または WMS 1.0 をドロップダウン リストで選択します。

ライセンスが正常にインポートされると、概要ページにライセンスの詳細を表示されます。

12. SMTP サーバの情報を入力して、**保存** をクリックします。

メモ: この画面をスキップして、後でコンソールで変更することもできます。

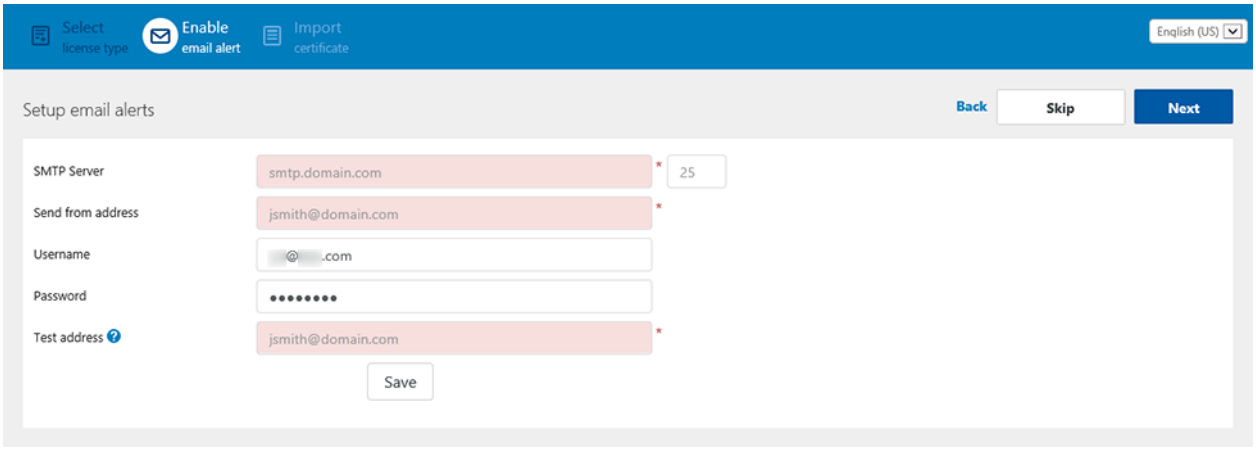

図 5. E-メールアラート

メモ: Wyse Management Suite から電子メール通知を受信するには、有効な SMTP サーバ情報を入力する必要があります。

13. Wyse Management Suite サーバとのセキュア通信のために、SSL 証明書をインポートしてください。パブリック、プライベート、Apache の証明書を入力して、**インポート** ボタンをクリックします。証明書をインポートする場合、Tomcat サービスを設定して再起動するまでに 3 分ほどかかります。この画面をスキップして、Wyse Management Suite プライベートクラウドにログインし、**ポータル管理** ページからインポートしてコンソールで後から設定を完了または変更を行うこともできます。

メモ:

デフォルトでは、Wyse Management Suite は、クライアントと Wyse Management Suite サーバ間のセキュア通信のために、インストール中に生成された自己署名 SSL 証明書をインポートします。Wyse Management Suite サーバに有効な証明書をインポートせずに、インストールされているサーバ以外のマシンから Wyse Management Suite にアクセスすると、セキュリティ警告メッセージが表示されます。この警告メッセージが表示されるのは、インストール中に生成された自己署名証明書に geotrust.com などの認証局の署名がないためです。.pem 証明書または .pfx 証明書のどちらをインポートしてもかまいません。

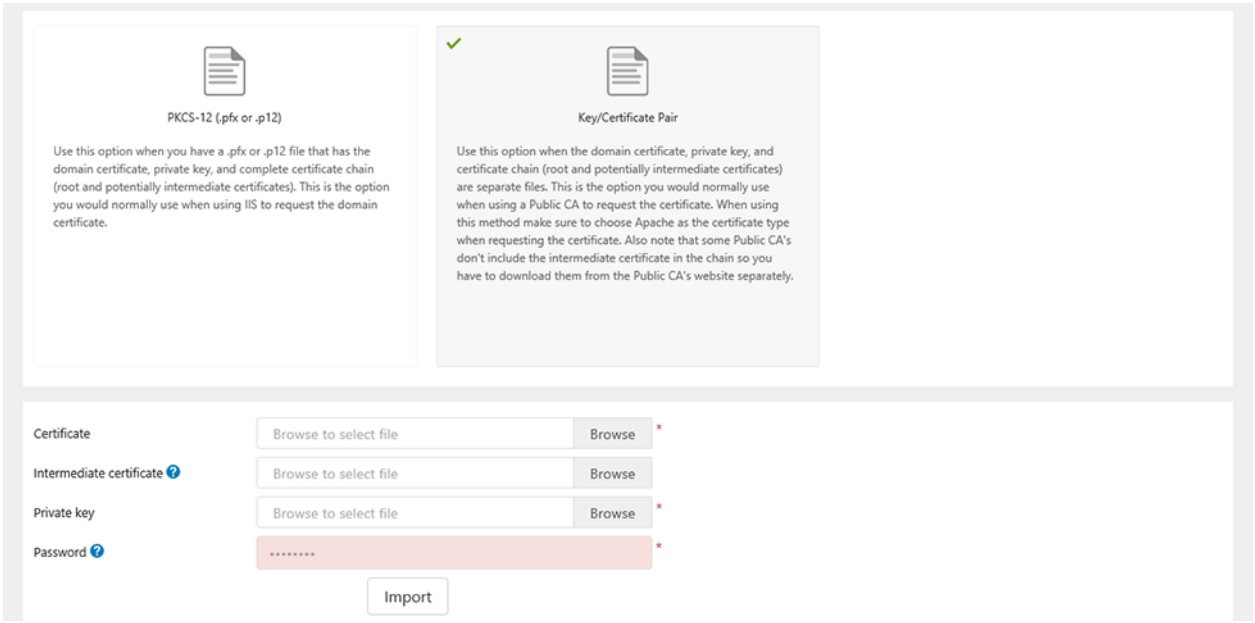

図 6. キーまたは証明書値のペア

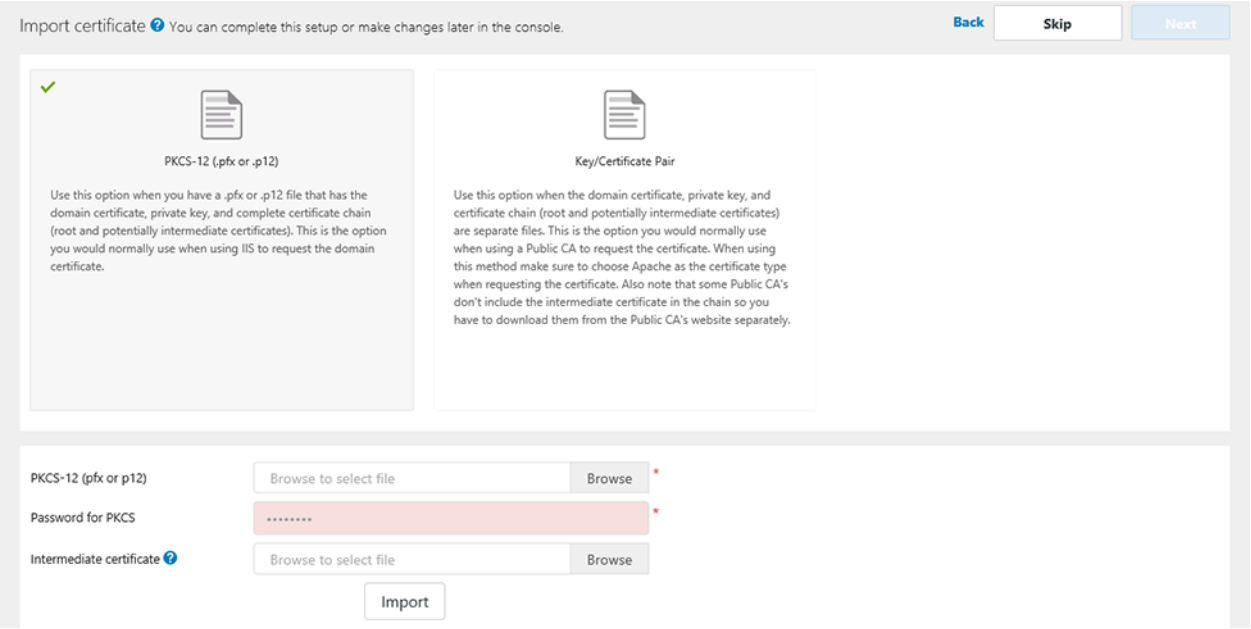

図 7. PKCS-12

14. [**デバイス**] ページで [**登録の検証**] を有効にすると、グループへのシン クライアントの手動/自動登録を管理者が制御できるようになります。

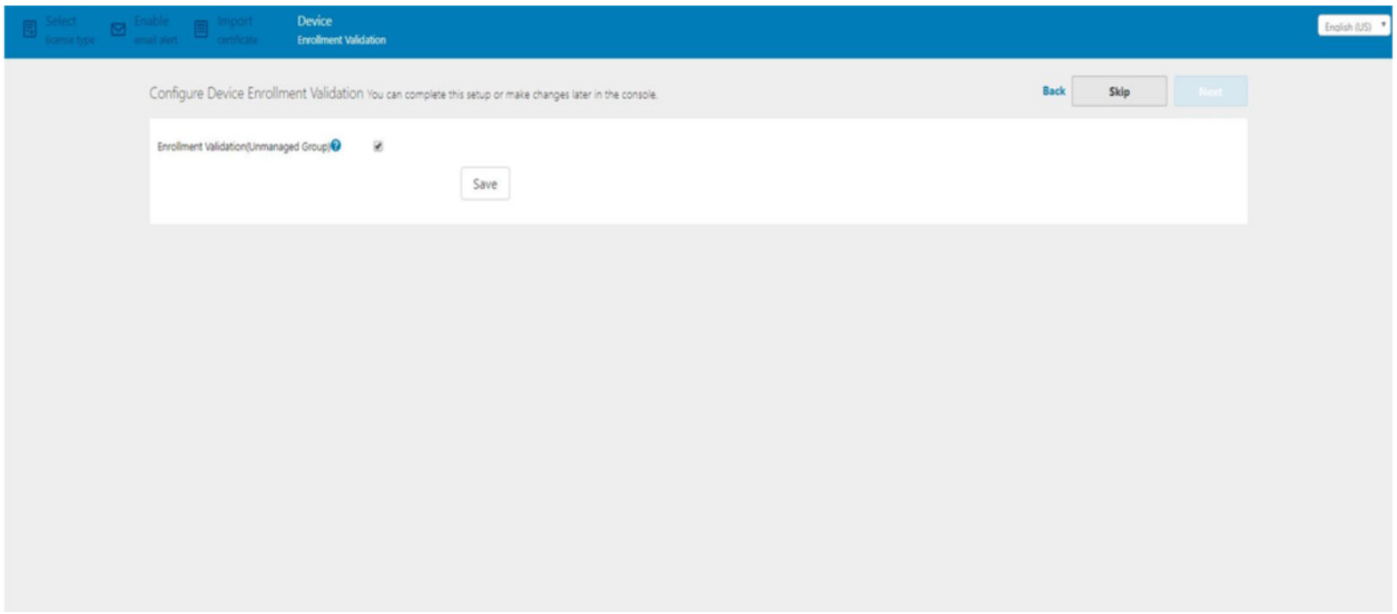

図 8. 登録の検証

15. [**保存**] をクリックしてから [**次へ**] をクリックします。
16. **WMS にサインイン** をクリックします。
    Dell Management Portal ログイン ページが表示されます。

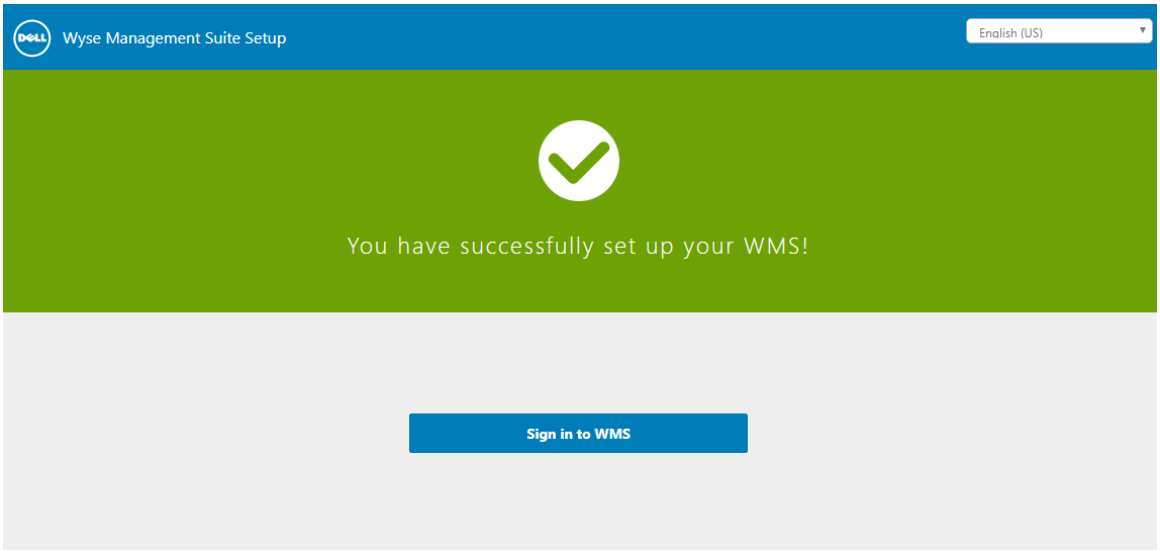

図 9. サインインページ

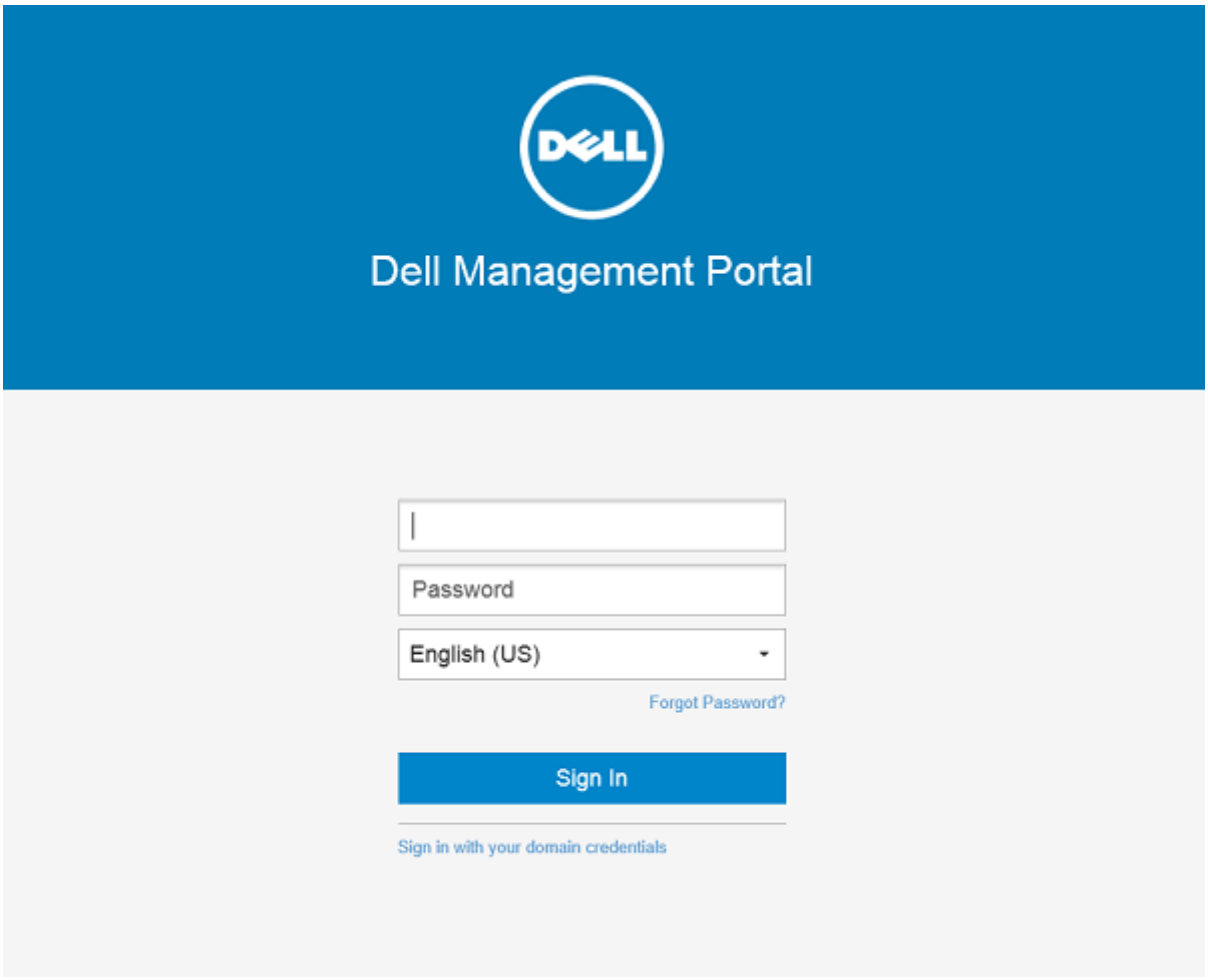

図 10. Dell Management Portal

メモ: ライセンスのアップグレードや延長は、ポータル管理 ページで行えます。

トピック：

- Wyse Management Suite へのログイン

- 管理コンソールの機能エリア
- Thin Client の設定および管理
- ポリシーグループの作成と設定のアップデート
- Thin Client の新規登録

Wyse Management Suite へのログイン

管理コンソールにログインするには、次の操作を行います。

1. Internet Explorer を使用している場合は、**Internet Explorer セキュリティ強化** と **互換表示** 設定を無効にします。
2. インターネットにアクセスしている任意のマシンの対応ウェブブラウザで、https://<FQDN>/ccm-web から Wyse Management Suite の Private Cloud Edition にアクセスします。たとえば、https://wmsserver.domain.com/ccm-web では、サーバの完全修飾ドメイン名は wmsserver.domain.com です。
3. ユーザー名とパスワードを入力します。
4. **サインイン** をクリックします。

管理コンソールの機能エリア

Wyse Management Suite コンソールは、以下の機能領域に分かれています。

- **ダッシュボード** ページは、システムの各機能領域に関する情報を提供します。
- **グループ & 構成** ページでは、デバイス設定の階層グループポリシー管理を採用します。オプションで、グローバルグループポリシーのサブグループを作成して、企業の基準に従ってデバイスを分類することができます。たとえば、ジョブ機能、デバイスタイプ、個人所有デバイス (BYOD) などに基づいて、デバイスをグループ化できます。
- **デバイス** ページでは、デバイス、デバイスの種類、デバイス固有の設定の表示および管理ができます。
- **アプリとデータ** ページは、デバイスアプリケーション、オペレーティングシステムイメージ、ポリシー、証明書ファイル、ロゴ、および壁紙イメージを管理できます。
- **ルール** ページでは、自動グループ化およびアラート通知などのルールを追加、編集、有効または無効にすることができます。
- **ジョブ** ページでは、再起動、WOL、および登録したデバイスで展開する必要のあるアプリケーションまたはイメージポリシーなどの、タスクのジョブを作成できます。
- **イベント** ページでは、システムのイベントおよびアラートの表示および監査を行うことができます。
- **ユーザー** ページでは、Wyse Management Suite にログインするために、ローカルユーザーおよび Active Directory からインポートされたユーザーに、グローバル管理者、グループ管理者およびビューアの役割を割り当てることができます。ユーザーは、割り当てられた役割に基づいて、操作を実行するための許可が付与されます。
- **ポータル管理** ページで管理者は、ローカルリポジトリ設定、ライセンスサブスクリプション、Active Directory の設定、二要素認証など、さまざまなシステム設定を行えます。詳細については、『*Dell Wyse Management Suite Administrator's Guide*』(Dell Wyse Management Suite 管理者ガイド)(support.dell.com) を参照してください。

Thin Client の設定および管理

設定の管理 - Wyse Management Suite はグループとサブグループの階層をサポートします。グループは、システム管理者が定義するルールに基づいて手動または自動で作成できます。マーケティング、セールス、エンジニアリングなど機能グループに基づいたグループや、国、都道府県、市町村など場所の階層に基づいたグループが構成できます。

メモ:

Pro Edition では、管理者はグループ作成のためのルールを追加できます。サブネット、タイムゾーン、場所などのデバイス属性により、既存のグループにデバイスを割り当てることもできます。

次の設定をすることもできます。

- デフォルトポリシーグループで設定されたテナントアカウント内のすべてのデバイスに適用する設定項目またはポリシー項目。これらの設定項目およびポリシー項目は、すべてのグループとサブグループが継承するグローバルなパラメータです。
- 下位グループで設定された設定項目またはパラメータは、親または上位レベルのグループでの設定よりも優先されます。
- **デバイスの詳細** ページから設定可能な特定デバイスに対する具体的なパラメータ。下位レベルグループ同様、これらのパラメータは、上位レベルグループでの設定よりも優先されます。

管理者がポリシーを作成して公開すると、グループとすべてのサブグループの全デバイスに設定パラメータが導入されます。

いったん設定が公開されデバイスに導入されると、管理者による変更があるまで、設定が再度デバイスに送られることはありません。登録された新しいデバイスは、登録された先のグループに有効な設定ポリシーを受信します。これには、グローバルグループ、および中レベルのグループから継承されたパラメータが含まれます。

設定ポリシーはすぐに公開され、後で実行するようスケジュールすることはできません。ディスプレイ設定など、一部のポリシーの変更については再起動が強制される場合があります。

アプリケーションおよびオペレーティングシステムのイメージ導入 - アプリケーションとオペレーティングシステムイメージのアップデートは、**アプリケーションとデータ** タブから導入できます。アプリケーションは、ポリシーグループに基づいて導入されます。

メモ: 詳細設定アプリケーションポリシーでは、要件に応じて現在およびすべてのサブグループにアプリケーションを導入できます。オペレーティングシステムのイメージは現在のグループのみに導入できます。

Wyse Management Suite は、標準および詳細設定アプリケーションポリシーをサポートします。標準アプリケーションポリシーでは、1 つのアプリケーションパッケージをインストールできます。各アプリケーションのインストール前およびインストール後、デバイスを再起動する必要があります。詳細設定アプリケーションポリシーでは、2 回の再起動で、複数のアプリケーションパッケージをインストールできます。この機能は Pro Edition でのみ使用できます。詳細設定アプリケーションポリシーは、特定アプリケーションのインストール前後に実行する必要があるスクリプトの実行もサポートします。

デバイスを Wyse Management Suite で登録する場合、またはデバイスを新しいグループに移動する場合に、標準および詳細設定アプリケーションポリシーを設定できます。

アプリケーションポリシーおよびオペレーティングシステムイメージの Thin Client への導入は、すぐに実行するか、またはデバイスのタイムゾーンやその他の指定されたタイムゾーンに基づいてスケジュールを設定できます。

デバイスのインベントリ - このオプションは **デバイス** タブをクリックすると特定できます。デフォルトでは、このオプションは、システムのすべてのデバイスのページ単位リストを表示します。管理者は、グループまたはサブグループ、デバイスタイプ、オペレーティングシステムタイプ、ステータス、サブネット、プラットフォーム、タイムゾーンなど、さまざまなフィルタ条件を使用したデバイスのサブセットの表示を選択できます。

デバイスの詳細 ページを開くには、このページにリストされているデバイスのエントリをクリックします。デバイスの詳細がすべて表示されます。

デバイスの詳細 ページには、デバイスに適用可能なすべての設定パラメータの他、各パラメータが適用されるグループのレベルも表示されます。

このページで **デバイスの例外** ボタンを有効にすれば、該当デバイス特有の設定パラメータを設定することもできます。このセクションで設定されたパラメータは、グループおよび / またはグローバルレベルで設定されたいずれのパラメータよりも優先されます。

レポート - 管理者は、定義済みフィルタに基づいて既製レポートを生成および表示できます。既製レポートを生成するには、**ポータル管理** ページの **レポート** タブをクリックします。

モバイルアプリケーション - 管理者は、Android デバイスで利用できるモバイルアプリケーションで、アラート通知を受信し、デバイスを管理することができます。モバイルアプリケーションおよびクイックスタートガイドをダウンロードするには、**アラートと分類** タブ (**ポータル管理** ページ) をクリックします。

ポリシーグループの作成と設定のアップデート

ポリシーを作成して設定をアップデートするには、次の操作を行います。

1. 管理者 としてログインします。
2. ポリシーグループを作成するには、次の操作を行います。
   a. **グループ & 設定** をクリックし、左側のペインの下の方にある **+** ボタンをクリックします。
   b. ユーザー名と説明を入力します。
   c. **有効** チェックボックスを選択します。
   d. グループトークンを入力します。
   e. **保存** をクリックします。
3. グループをアップデートまたは編集するには、次の操作を行います。
   a. **ポリシーの編集** をクリックし、ポリシーを管理するオペレーティングシステムを選択します。
   b. 変更するポリシーを選択して、設定を完了します。
   c. **保存して公開** をクリックします。

メモ:

- **Wyse Management Suite でサポートされる各種設定ポリシーの詳細については、『*Dell Wyse Management Suite Administrator's Guide*』(Dell Wyse Management Suite 管理者ガイド) (support.dell.com) を参照してください。**
- **サブネット、タイムゾーン、場所などの特定の属性に基づいて、自動的にグループを作成したり、グループにデバイスを割り当てたりするルールを作成することができます。**

Thin Client の新規登録

メモ: お客様のセキュリティ環境については、「Wyse Device Agent」を参照してください。

Thin Client は、Wyse Device Agent (WDA) を使用して、Wyse Management Suite に手動で登録できます。DHCP サーバで適切なオプションタグを設定するか、DNS サーバで適切な DNS SRV レコードを設定して、Thin Client を自動登録することもできます。

別のサブネットのデバイスを複数のサブネットで構成された別の Wyse Management Suite グループに自動的にチェックする場合は、DHCP オプションタグを使用して Thin Client を登録します。たとえば、TimeZone_A のデバイスは、TimeZoneA に設定された ProfileGroup にチェックインできます。

TLD にある Wyse Management Suite サーバ情報を入力する場合、および Wyse Management Suite Pro をインストール済みで、デバイス ルールに基づく自動グループ割り当てを許可している場合は、DNS サーバの DNS SRV レコードを使用して Thin Client を登録します。たとえば、デバイスが TimeZoneA からでチェックインしている場合は、TimeZoneA に設定されている ProfileGroup に割り当てます。

自己署名証明書のあるプライベートクラウドの Wyse Management Suite の場合は、セキュアな通信を行うために、次のバージョンの Wyse Device Agent またはファームウェアが Thin Client にインストールされている必要があります。

- Windows Embedded Systems - 13.0 以降のバージョン
- Thin Linux - 2.0.24 以降のバージョン
- ThinOS - 8.4 ファームウェア以降のバージョン
- HTTPS の代わりに HTTP URL を使用して、古いバージョンのエージェントにデバイスを登録することもできます。エージェントまたはファームウェアが最新バージョンにアップグレードされると、Wyse Management Suite との通信は自動的に https に切り替わります。
- 最新バージョンの WDA は、downloads.dell.com/wyse/wda からダウンロードできます。
- Wyse Management Suite がプライベート クラウドにインストールされている場合は、**[ポータル管理]** > **[セットアップ]** の順に移動して、[**証明書の認検証**] チェックボックスを選択します (www.geotrust.com などの認証局から証明書をインポート済みの場合)。既知の証明局から証明書をインポートしていない場合は、このチェックボックスを選択しないでください。パブリッククラウドでは証明書の検証が常時有効なため、このオプションはパブリッククラウド上の Wyse Management Suite には使用できません。

ThinOS デバイスの手動登録

ThinOS デバイスを手動で登録するには、次の操作を行います。

1. デスクトップのメニューから、**セットアップ** > **一元設定** を選択します。
   一元設定 ウィンドウが表示されます。
2. **WDA** タブをクリックします。

   デフォルトでは、**WMS** が選択されています。

   メモ: クライアントのブートアッププロセスの完了後、WDA サービスが自動的に実行されます。

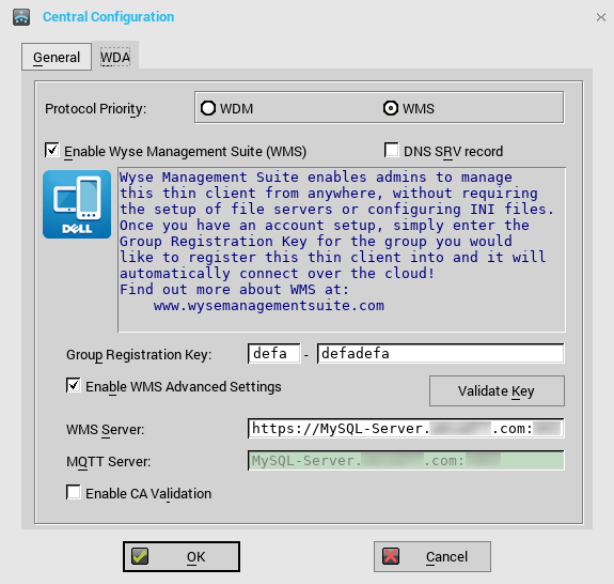

図 11. 一元設定

3. **Wyse Management Suite の有効化** チェックボックスを選択して、Wyse Management Suite を有効化します。
4. 管理者が対象グループに対して設定した **グループ登録キー** を入力します。
5. **WMS の詳細設定の有効化** オプションを選択して、WMS サーバまたは MQTT サーバの詳細情報を入力します。
6. お使いのライセンスタイプ (パブリッククラウドまたはプライベートクラウド) に基づいて、CA 検証を有効化または無効化します。
   - パブリッククラウド：デバイスがパブリッククラウドの Wyse Management Suite に登録されている場合は、**CA 検証の有効化** チェックボックスを選択します。
   - プライベートクラウド：Wyse Management Suite サーバに既知の認証局から証明書をインポート済みの場合は、**CA 検証の有効化** チェックボックスを選択します。

   メモ:

   米国内の Pro クラウドバージョンの Wyse Management Suite の場合は、デフォルトの WMS サーバと MQTT サーバの詳細項目を変更しないでください。ヨーロッパの Pro クラウドバージョンの Wyse Management Suite の場合は、以下を使用してください。

   - **CCM サーバ：eu1.wysemanagementsuite.com**
   - **MQTT サーバ：eu1-pns.wysemanagementsuite.com:1883**
7. 設定を確認するには、**キーの検証** クリックします。キーの検証後、デバイスは自動的に再起動します。

   メモ: キーが検証されない場合は、入力した資格情報を確認します。ネットワークでポート 443 および 1883 がブロックされていないことを確認します。
8. **OK** をクリックします。
   デバイスが、Wyse Management Suite コンソールに登録されました。

Windows Embedded Standard デバイスと Linux デバイスの登録方法の詳細については、「Windows Embedded Standard デバイスの手動登録」および「Linux デバイスの手動登録」を参照してください。

INI ファイルを使用した ThinOS デバイスの登録

wnos.ini または xen.ini を使用して ThinOS を設定する場合は、.ini ファイルに詳細情報を公開して、デバイスに Wyse Management Suite サーバへのチェックインを知らせることができます。

例：

- ThinOS 8.5 の例：

  WDAService=yes \

  Priority=WMS

  WMSEnable=yes \

  Server=<サーバ URL> \

CAValidation=no \

Override=yes

- ThinOS 8.4 の例：

  WDAService=yes \

  Priority=CCM

  CCMEnable=yes \

  CCMServer=<サーバ URL> \

  GroupPrefix=<プレフィックス> \

  GroupKey=<キー> \

  MQTTServer=<サーバ URL> \

  Override=yes \

  CAValidation=no

詳細については、最新の『*Dell Wyse ThinOS INI guide*』(Dell Wyse ThinOS INI ガイド)(support.dell.com) を参照してください。

メモ:

- **ThinOS 8.3 (ThinOS Lite 2.3) 以降のバージョンでは、`WDA Service Priority` コマンドで管理プロトコルを指定できます。このコマンドは、管理サーバの検出に使用されます。**
- **ThinOS バージョン 8.3、8.4、8.5 の CCM タグは異なります。**

DHCP オプションタグの使用によるデバイスの登録

メモ:

- **Windows サーバで DHCP オプションタグを追加する方法に関する詳細手順は、「DHCP オプションタグの作成および設定」を参照してください。お客様のセキュリティ環境については、「Wyse Device Agent」を参照してください。**

以下の DHCP オプションタグを使用して、デバイスを登録できます。

表 2. DHCP オプションタグの使用によるデバイスの登録

オプションタグ	説明
名前 - WMS **データタイプ** - 文字列 **コード** - 165 **説明** - WMS サーバ FQDN	このタグは、Wyse Management Suite サーバ URL をポイントします。たとえば、`wmsserver.acme.com:443` であれば、wmsserver.acme.com は、Wyse Management Suite がインストールされているサーバの完全修飾ドメイン名です。パブリッククラウドで Wyse Management Suite にデバイスを登録するリンクについては、「プライベートクラウドで Wyse Management Suite を開始する」を参照してください。 **メモ: サーバの URL で https:// を使用しないでください。使用すると、Thin Client が Wyse Management Suite の下に登録されません。**
名前 - MQTT **データタイプ** - 文字列 **コード** - 166 **説明** - MQTT サーバ	このタグは、デバイスを Wyse Management Suite のプッシュ通知サーバ (PNS) にポイントします。プライベートクラウドのインストールについては、デバイスは Wyse Management Suite サーバ上の MQTT サービスに向けられます。例：`wmsservername.domain.com:1883`。 デバイスを Wyse Management Suite のパブリッククラウドで登録するには、デバイスがパブリッククラウドで PNS (MQTT) サーバをポイントする必要があります。たとえば、次のとおりです。 US1：us1-pns.wysemanagementsuite.com EU1：eu1-pns.wysemanagementsuite.com
名前 - CA 検証 **データタイプ** - 文字列 **コード** - 167	プライベートクラウドでシステムに Wyse Management Suite がインストールされている場合、このタグは必須です。パブリッククラウドでデバイスを Wyse Management Suite に登録する場合は、このオプションタグを追加しないでください。

オプションタグ	説明
説明 - 認証局の検証	クライアントと Wyse Management Suite サーバ間の https 通信のために既知の認証局から SSL 証明書をインポートしている場合は、**True** を入力します。 クライアントと Wyse Management Suite サーバ間の https 通信のために既知の認証局から SSL 証明書をインポートしていない場合は、**False** を入力します。
名前 - GroupToken **データタイプ** - 文字列 **コード** - 199 **説明** - グループトークン	パブリックまたはプライベートクラウドで ThinOS デバイスを Wyse Management Suite に登録する場合、このタグは必須です。 プライベートクラウドで Windows Embedded Standard または ThinLinux デバイスを Wyse Management Suite に登録する場合、このタグは任意です。タグが使用できない場合、デバイスは、オンプレミスのインストール中に自動的に管理対象外グループに登録されます。

DNS SRV レコードの使用によるデバイスの登録

メモ: お客様のセキュリティ環境については、「Wyse Device Agent」を参照してください。

DNS ベースのデバイスの登録は、次のバージョンの Wyse デバイスエージェントでサポートされています。

- Windows Embedded Systems - 13.0 以降のバージョン
- Thin Linux - 2.0.24 以降のバージョン
- ThinOS - 8.4 ファームウェア以降のバージョン

DNS SRV レコードのフィールドに有効な値が設定されている場合は、Wyse Management Suite サーバにデバイスを登録することができます。

メモ: Windows サーバで DNS SRV レコードを追加する方法に関する詳細手順は、「DNS SRV レコードの作成および設定」を参照してください。

次の表に、DNS SRV レコードの有効な値を示します。

表 3. DNS SRV レコードの使用によるデバイスの設定

URL/ タグ	説明
レコード名 - _WMS_MGMT **レコード FQDN** - _WMS_MGMT._tcp.<ドメイン名> **レコードタイプ** - SRV	このレコードは、Wyse Management Suite サーバ URL をポイントします。たとえば、`wmsserver.acme.com:443` であれば、wmsserver.acme.com は、Wyse Management Suite がインストールされているサーバの完全修飾ドメイン名です。パブリッククラウドで Wyse Management Suite にデバイスを登録するリンクについては、「プライベートクラウドで Wyse Management Suite を開始する」を参照してください。 **メモ: サーバの URL で https:// を使用しないでください。使用すると、Thin Client が Wyse Management Suite の下に登録されません。**
レコード名 - _WMS_MQTT **レコード FQDN** - _WMS_MQTT._tcp.<ドメイン名> **レコードタイプ** - SRV	このレコードは、デバイスを Wyse Management Suite のプッシュ通知サーバ (PNS) にポイントします。プライベートクラウドのインストールについては、デバイスは Wyse Management Suite サーバ上の MQTT サービスに向けられます。例：`wmsservername.domain.com:1883`。 **メモ: MQTT は、最新バージョンの Wyse Management Suite では任意です。** デバイスを Wyse Management Suite のパブリッククラウドで登録するには、デバイスがパブリッククラウドで PNS (MQTT) サーバをポイントする必要があります。たとえば、次のとおりです。 US1 - us1-pns.wysemanagementsuite.com

URL/ タグ	説明
	EU1 - eu1-pns.wysemanagementsuite.com
レコード名 - _WMS_GROUPTOKEN **レコード FQDN** - _WMS_GROUPTOKEN.<ドメイン> **レコードタイプ** - テキスト	パブリックまたはプライベートクラウドで ThinOS デバイスを Wyse Management Suite に登録する場合、このレコードは必須です。 プライベートクラウドで Windows Embedded Standard または ThinLinux デバイスを Wyse Management Suite に登録する場合、このレコードは任意です。レコードが使用できない場合、デバイスは、オンプレミスのインストール中に自動的に管理対象外グループに登録されます。 **メモ: プライベートクラウド上の最新バージョンの Wyse Management Suite ではグループトークンはオプションです。**
レコード名 - _WMS_CAVALIDATION **レコード FQDN** - _WMS_CAVALIDATION.<ドメイン> **レコードタイプ** - テキスト	プライベートクラウドでシステムに Wyse Management Suite がインストールされている場合、このレコードは必須です。パブリッククラウドでデバイスを Wyse Management Suite に登録する場合は、このオプションレコードを追加しないでください。 クライアントと Wyse Management Suite サーバ間の https 通信のために既知の認証局から SSL 証明書をインポートしている場合は、**True** を入力します。 クライアントと Wyse Management Suite サーバ間の https 通信のために既知の認証局から SSL 証明書をインポートしていない場合は、**False** を入力します。 **メモ: CA 検証は、最新バージョンの Wyse Management Suite では任意です。**

4

Thin Client へのアプリケーションの導入

標準アプリケーションポリシーを使用すると、単一のアプリケーションパッケージをインストールできます。各アプリケーションをインストールする前と後の再起動が必要です。詳細アプリケーションポリシーを使用すると、2 回の再起動のみで複数のアプリケーションパッケージをインストールできます。詳細アプリケーションポリシーは、特定のアプリケーションをインストールするのに必要なインストール前およびインストール後のスクリプトの実行もサポートします。詳細については、付録 B を参照してください。

トピック：

ThinOS ファームウェアイメージのインベントリのアップロードおよび導入

ThinOS イメージインベントリにファイルを追加するには、次の操作を行います

1. **アプリ & データ** タブで、**OS イメージリポジトリ** の **ThinOS** をクリックします。
2. **ファームウェアファイルの追加** をクリックします。
   ファイルの追加 画面が表示されます。
3. ファイルを選択するには、**参照** をクリックしてファイルがある場所に移動します。
4. お使いのファイルの説明を入力します。
5. 既存のファイルを上書きする場合は、チェックボックスを選択します。
6. **アップロード** をクリックします。

   メモ: チェックボックスを選択すると、ファイルはリポジトリに追加されますが、グループまたはデバイスのいずれにも割り当てられません。ファイルを割り当てるには、それぞれのデバイス設定ページに移動します。

Thin Client に対する標準アプリケーションポリシーの作成および導入

Thin Client に標準アプリケーションポリシーを導入するには、次の操作を行います。

1. ローカルリポジトリで **thinClientApps** に移動して、アプリケーションをフォルダにコピーします。
2. **アプリ & データ** タブを選択し、**アプリインベントリ** の **Thin Client** を選択します。

   メモ: 最近追加したプログラムがアプリインベントリのインタフェースに表示されるまで約 2 分かかります。
3. **アプリポリシー** で、**Thin Client** をクリックします。
4. **ポリシーの追加** をクリックします。
5. アプリケーションポリシーを作成するには、**標準アプリポリシーの追加** ウィンドウで必要な情報を入力します。
   a. **ポリシー名**、**グループ**、**タスク**、**デバイスタイプ**、**TC アプリケーション** を選択します。
   b. 特定のオペレーティングシステムまたはプラットフォームにこのポリシーを導入する場合は、**OS サブタイプフィルタ** または **プラットフォームフィルタ** を選択します。

      タイムアウト では、クライアントにメッセージが表示され、インストール開始前に作業を保存する時間を提供します。メッセージダイアログをクライアントに表示する時間 (分) を指定します。
   c. このポリシーを Wyse Management Suite に登録されているデバイスに自動的に適用する場合は、**ポリシーを自動的に適用** ドロップダウンリストから **新規デバイスにポリシーを適用** を選択します。

   メモ:

   - **定義済みのグループまたはグループに直接登録済みのディレクトリにデバイスを移動すると、アプリポリシーが適用されます。**

- **チェックイン時にポリシーをデバイスに適用 を選択した場合、ポリシーは、Wyse Management Suite server へのチェックイン時に自動的にデバイスに適用されます。**

6. ポリシー実行の遅延を許可するには、**ポリシー実行の遅延を許可** チェックボックスを選択します。このオプションが選択されている場合、以下のドロップダウンメニューが有効になります。
   - **遅延あたりの最大時間** ドロップダウンメニューから、ポリシーの実行を遅らせることができる最大時間 (1 ~ 24 時間) を選択します。
   - **最大遅延** ドロップダウンメニューから、ポリシーの実行を遅らせることができる回数 (1 ~ 3 回) を選択します。
7. 定義した値の時間が経過した後にインストール プロセスを停止するには、[**アプリケーションのインストール タイムアウト**] フィールドに時間 (分) を指定します。
8. **保存** クリックしてポリシーを作成します。

   メッセージが表示され、管理者はグループに基づいてデバイスでこのポリシーをスケジュールできるようになります。
9. 同じページ上のジョブをスケジュールするには、**はい** を選択します。

   アプリ / イメージポリシージョブは、次のタイミングで実行できます。

   a. **即時** - サーバは即時ジョブを実行します。
   b. **デバイスのタイムゾーン** - サーバは各デバイスのタイムゾーンに 1 つのジョブを作成し、デバイスのタイムゾーンの選択した日付 / 時刻にジョブをスケジュールします。
   c. **選択したタイムゾーン** -サーバは、指定されたタイムゾーンの日付および時刻に実行するジョブを 1 つ作成します。
10. ジョブを作成するには、**プレビュー** をクリックすると、次のページにスケジュールが表示されます。
11. **ジョブ** ページにナビゲートして、ジョブのステータスを確認できます。

5

Wyse Management Suite のアンインストール

Wyse Management Suite リポジトリをアンインストールするには、次の操作を行います。

1. **WMS** アイコンをダブルクリックします。

   アンインストーラウィザードが開始し、**Wyse Management Suite アンインストーラ** 画面が表示されます。
2. **次へ** をクリックします。デフォルトでは **削除** ラジオボタンが選択されており、Wyse Management Suite インストーラコンポーネントはすべてアンインストールされます。

6

Wyse Management Suite のトラブルシューティング

このセクションでは、Wyse Management Suite のトラブルシューティングについて説明します。

Wyse Management Suite の ウェブコンソールへのアクセスに関する問題

- 問題：Wyse Management Suite コンソールに接続しようとすると、認証 GUI が表示されずに、HTTP ステータス 404 ページが表示されます。

  対策：次の順序でサービスを停止して開始します。

  1. Dell WMS: MariaDB
  2. Dell WMS: memcached
  3. Dell WMS: MongoDB
  4. Dell WMS: MQTT ブローカー サービス
  5. Dell WMS: Tomcat Service
- 問題：Wyse Management Suite コンソールに接続しようとすると、認証 GUI が表示されずに、次のようなエラーメッセージが表示されます。

  このページを表示できません

  対策：Dell WMS: Tomcat Service を再起動します。
- 問題：Internet Explorer を使用すると、Wyse Management Suite のウェブコンソールが応答しないか、ウェブページに情報が正しく表示されません。

  対策：

  - Internet Explorer の対応バージョンを使用していることを確認します。
  - Internet Explorer セキュリティ強化 が無効になっていることを確認します。
  - 互換表示設定を無効にします。

Wyse Management Suite でのデバイス登録

メモ: お客様のセキュリティ環境については、「Wyse Device Agent」を参照してください。

- 問題：パブリッククラウドの Wyse Management Suite にデバイスを登録できません

  対策：

  - ポート 443 および 1883 が開いていることを確認します。
  - ネットワーク接続を確認して、パブリッククラウドのブラウザから Wyse Management ウェブアプリケーションにアクセスします。
  - **自動検出** が有効になっている場合は、DHCP または DNS SVR レコードが正しく設定されていることを確認します。また、サーバ URL とグループトークンも確認します
  - デバイスを手動で登録できるかどうか確認します。
- 問題：プライベートクラウドの Wyse Management Suite にデバイスを登録できません。

  対策：

  - ポート 443 および 1883 が開いていることを確認します。
  - インターネット接続を確認し、ブラウザから Wyse Management ウェブアプリケーションにアクセスできることを確認します。
  - 自動検出が有効になっている場合は、DHCP または DNS SRV レコードが正しく設定されていることを確認します。また、サーバ URL とグループトークンも確認します

- デバイスを手動で登録できるかどうか確認します。
- 自己署名証明書またはよく知られている証明書を使用していることを確認します。

  メモ: デフォルトでは、Wyse Management Suite は自己署名証明書をインストールします。Wyse Management Suite サーバと通信するデバイスの CA 検証は、無効になっている必要があります。

デバイスへのコマンド送信中のエラー

問題：パッケージのアップデートやデバイスの再起動などのコマンドを送信できません。

対策：

- Wyse Management Suite サーバーで、Dell WMS: MQTT ブローカー サービスが実行されていることを確認します。
- ポート 1883 が開いていることを確認します。
- コマンドを送信する前に、デバイスがシャットダウンまたはスリープ状態になっていないことを確認します。

7

Wyse Device Agent

Wyse Device Agent（WDA）は、すべてのシン クライアント管理ソリューション向けの統合エージェントです。WDA をインストールすると、Wyse Management Suite を使用してシン クライアントを管理できます。

Wyse Device Agent では、次の 3 種類のカスタマー セキュリティ環境がサポートされています。

- **非常に安全な環境** - 新しいデバイス検出の際に不正な DHCP または DNS サーバーに対するリスクを軽減するために、管理者は各デバイスに個別にログインし、Wyse Management Suite サーバー URL を設定する必要があります。CA 署名証明書または自己署名証明書のいずれかを使用できます。ただし、デルでは CA 署名付き証明書を使用することをお勧めします。自己署名証明書付き Wyse Management Suite プライベート クラウド ソリューションでは、証明書はすべてのデバイスに手動で設定する必要があります。また、証明書を**エージェント設定**フォルダーにコピーして、証明書を保持し、デバイスを再イメージ化した後でも、不正な DHCP または DNS サーバーに対するリスクを軽減する必要があります。

  エージェント設定フォルダーは、次の場所にあります。

  - Windows Embedded Standard デバイスの場合 — `%SYSTEMDRIVE%\\Wyse\\WCM\\ConfigMgmt\\Certificates`
  - ThinLinux デバイスの場合 - `/etc/addons.d/WDA/certs`
  - ThinOS デバイスの場合 - `wnos/cacerts/`

  メモ: USB ドライブまたは FTP パスを使用して、ThinOS オペレーティング システムを実行しているシン クライアントに証明書をインポートする必要があります。
- **安全な環境** — 新しいデバイス検出の際に不正な DHCP または DNS サーバーに対するリスクを軽減するために、管理者は CA 署名証明書を使用して Wyse Management Suite サーバーを設定する必要があります。デバイスは、DHCP/DNS レコードから Wyse Management Suite サーバーの URL を取得し、CA 検証を実行できます。自己署名証明書付きの Wyse Management Suite プライベート クラウド ソリューションでは、デバイスに登録前の証明書がない場合、最初の登録後に証明書をデバイスにプッシュする必要があります。この証明書は、デバイスを再イメージ化または再起動した後も保持され、不正な DHCP サーバーまたは DNS サーバーに対するリスクを軽減します。
- **通常環境** — デバイスは、CA 署名証明書または自己署名証明書で設定された Wyse Management Suite プライベート クラウドの DHCP/DNS レコードから Wyse Management Suite サーバーの URL を取得します。デバイスで CA 検証オプションが無効になっている場合、デバイスを初めて登録した後、Wyse Management Suite 管理者に通知されます。このシナリオでは、管理者はサーバーが自己署名証明書で設定されているデバイスに証明書をプッシュすることをお勧めします。この環境はパブリック クラウドでは使用できません。

8

追加リソース

次の項目については、それぞれのリンクからビデオ チュートリアルを参照できます。

- Wyse Management Suite のインストール：「Wyse Management Suite のインストール」
- DHCP オプション タグ付き Wyse Management Suite On-Premise を使用した ThinOS クライアントの自動設定：「Wyse Management Suite を使用して ThinOS デバイスを設定する」

A

リモートデータベース

リモートまたはクラウドデータベース（DB）とは、ハイブリッドクラウド、パブリッククラウド、プライベートクラウドなどの仮想環境のために構築されデータベースです。Wyse Management Suite では、Mongo データベース（MongoDB）または Maria データベース（MariaDB）のいずれか、もしくは両方を必要に応じて設定できます。

トピック：

Configure Mongo database

Mongo database (MongoDB) operates on the Transmission Control Protocol (TCP) port number 27017.

NOTE: Replace any value that is boldfaced with your environment variables, as applicable.

To configure MongoDB, do the following:

1. Install the MongoDB version 4.2.1.
2. Copy the MongoDB files to your local system—`C:\Mongo`.
3. Create the following directories if they do not exist:
   - `C:\data`
   - `C:\data\db`
   - `C:\data\log`
4. Go to the Mongo folder (`C:\Mongo`), and create a file named `mongod.cfg`.
5. Open the `mongod.cfg` file in a notepad, and add the following script:

```
systemLog:
destination:file
path:c:\data\log\mongod.log
storage:
dbPath:c:\data\db
```

6. Save and close the `mongod.cfg` file.
7. Open command prompt as an administrator, and run the following command:

   `mongod.exe --config "C:\Program Files\MongoDB\Server\4.2\mongod.cfg" -install` or `sc.exe create MongoDB binPath= "\"C:\ProgramFiles\MongoDB\Server\3.2\bin\mongod.exe\"--service --config= \"C:\ProgramFiles\MongoDB\Server\4.2\mongod.cfg\"" DisplayName= "Dell WMS: MongoDB" start="auto"`

   MongoDB is installed.
8. To start the MongoDB services, run the following command:

   `net start mongoDB`
9. To start the Mongo database, run the following command:

   `mongo.exe`
10. To open the default admin db, run the following command:

    `use admin;`
11. After the MongoDB sheet is displayed, run the following commands:

```
db.createUser(
{
user:"wmsuser",
pwd:"PASSWORD",
roles:[{role:"userAdminAnyDatabase",db:"admin"},
{role:"dbAdminAnyDatabase",db:"admin"},
```

```
{role:"readWriteAnyDatabase",db:"admin"},
{role:"dbOwner",db:"stratus"}]
}
)
```

12. To switch to the stratus database, run the following command:

    `use stratus;`

13. To stop the MongoDB services, run the following command:

    `net stop mongoDB`

14. Add an authentication permission to the admin DB. Modify the `mongod.cfg` file to the following:

```
systemLog:
destination:file
path:c:\data\log\mongod.log
storage:
dbPath:c:\data\db
security:
authorization:enabled
```

15. To restart the MongoDB service, run the following:

    `net Start mongoDB;`

In the Wyse Management Suite installer, the administrator must use the same user name and password that was created to access the stratus databases in MongoDB. For information about setting the MongoDB on the Wyse Management Suite installer, see Custom installation.

Configure Maria database

Maria database (MariaDB) operates on the Transmission Control Protocol (TCP) port number 3306.

NOTE:

- **The IP address displayed here belongs to the Wyse Management Suite server that hosts the web components.**
- **Replace any value that is boldfaced with your environment variables, as applicable.**

To configure MariaDB, do the following:

1. Install the MariaDB version 10.2.29.
2. Navigate to the MariaDB installation path—`C:\Program Files\MariaDB 10.2\bin>mysql.exe -u root -p`.
3. Provide the root password which was created during installation
4. Create the database stratus—`DEFAULT CHARACTER SET utf8 DEFAULT COLLATE utf8_unicode_ci;`.
5. Create user `'stratus'@'localhost';`
6. Create user `'stratus'@'`**IP ADDRESS**`';`
7. Set a password for `'stratus'@'localhost'=password('`**PASSWORD**`');`
8. Set a password for `'stratus'@'IP ADDRESS'=password('`**PASSWORD**`');`
9. Provide all privileges on `*.* to 'stratus'@'`**IP ADDRESS**`'` identified by `'`**PASSWORD**`'` with a grant option.
10. Provide all privileges on `*.* to 'stratus'@'localhost'` identified by `'`**PASSWORD**`'` with a grant option.

NOTE: To configure custom port for MariaDB, navigate to `C:\Program Files\MariaDB 10.2\bin>mysql.exe -u root -p -P<custom port>` in the second step.

In the Wyse Management Suite installer, the administrator must use the same user name and password that was created to access the stratus databases in MariaDB. For information about setting the MariaDB on the Wyse Management Suite installer, see Custom installation.

B

カスタムインストール

カスタムインストールでは、Wyse Management Suite を設定するデータベースを選択できます。Wyse Management Suite に関する基本的な技術作業知識が必要です。デルは、上級ユーザーにのみ、カスタムインストールを推奨します。

1. **セットアップタイプ** で **カスタム** を選択して、**次へ** をクリックします。

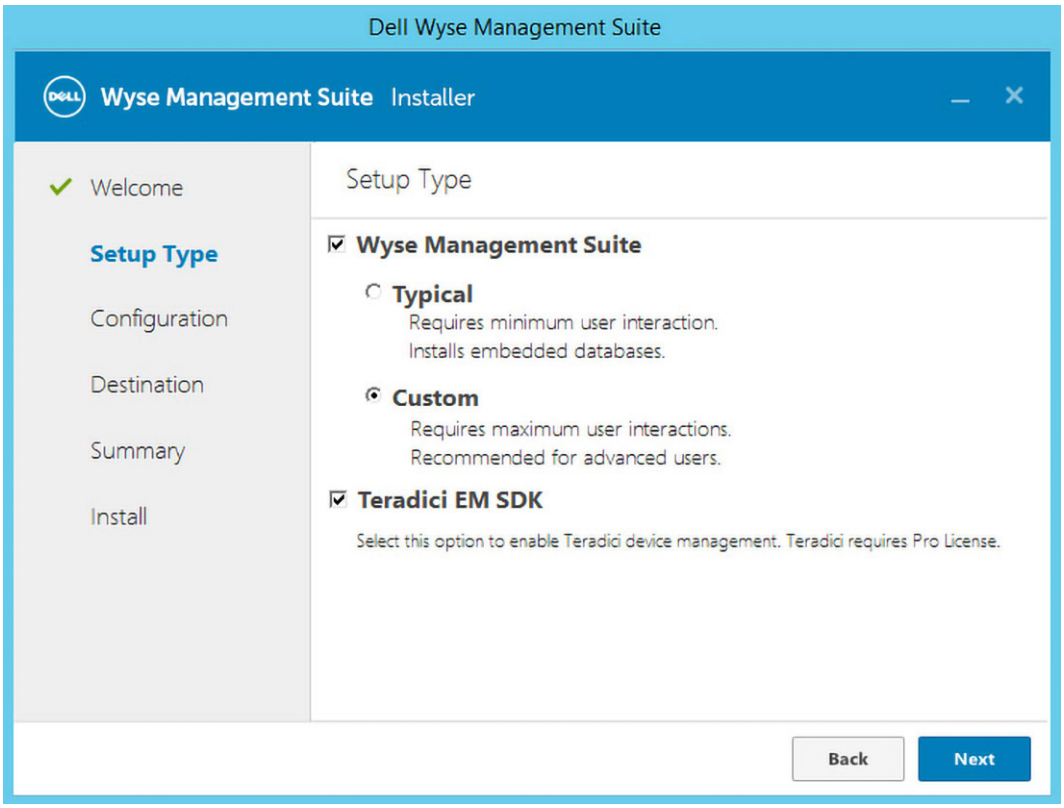

図 12. セットアップ タイプ

Mongo データベースサーバ ページが表示されます。

2. Mongo データベースサーバとして、**Embedded MongoDB** または **External MongoDB** のいずれかを選択します。
   - **Embedded MongoDB** を選択した場合は、パスワードを入力して、**次へ** をクリックします。

     メモ: Embedded MongoDB を選択した場合は、ユーザー名とデータベースサーバの詳細情報は必要ありません。それぞれのフィールドはグレー表示されます。

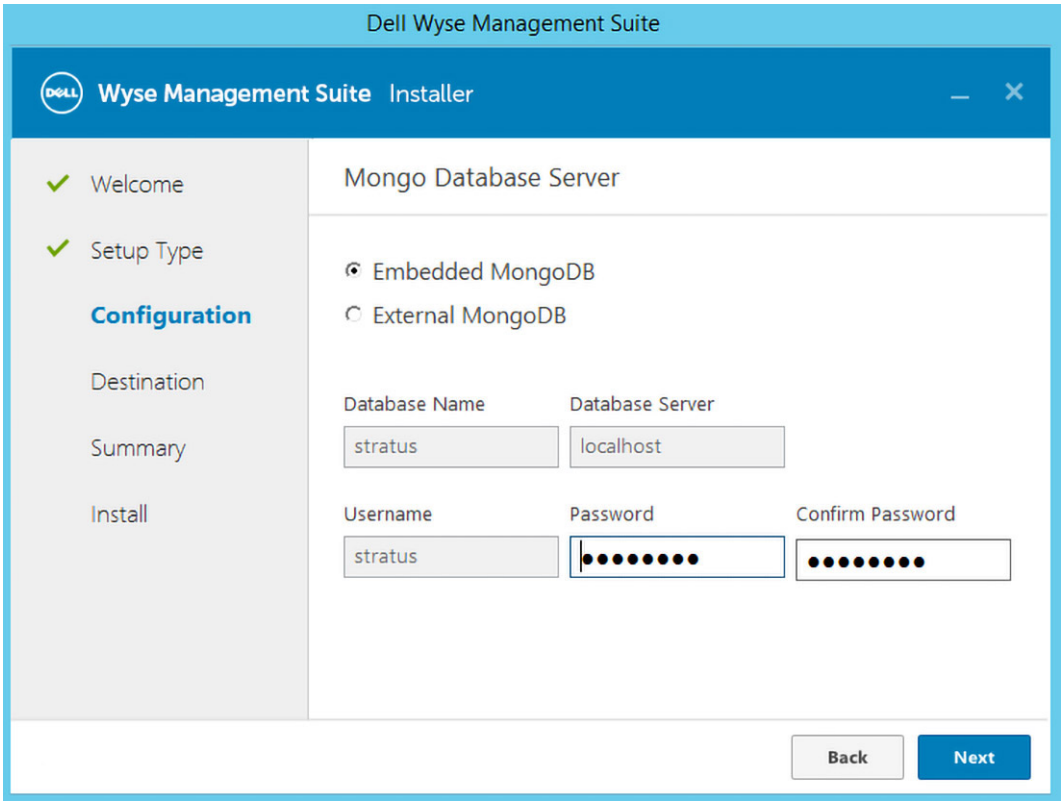

図 13. Embedded Mongo データベースサーバ

- **External MongoDB** を選択した場合は、ユーザー名、パスワード、データベースサーバの詳細情報、ポートの詳細情報を入力して、**次へ** をクリックします。

  メモ: ポート フィールドにはデフォルトのポートが入力されますが、この値は変更できます。

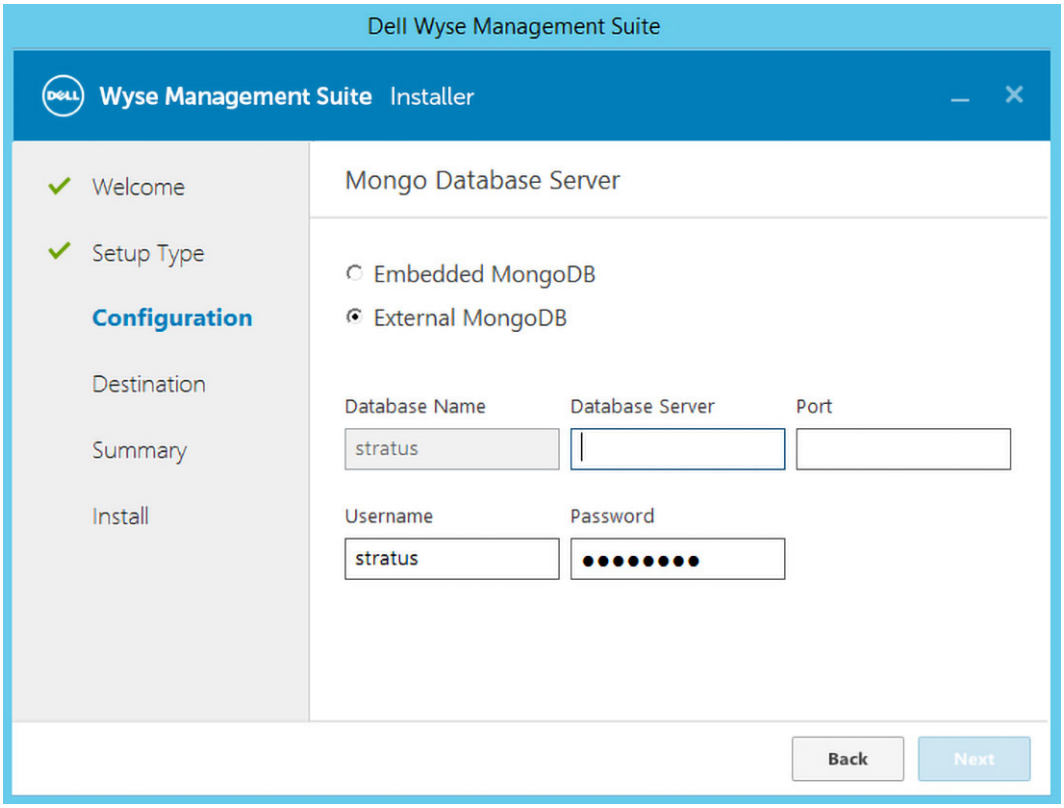

図 14. External MongoDB

MariaDB **データベースサーバ** ページが表示されます。

3. MariaDB データベースサーバとして、**Embedded MariaDB** または **External MariaDB** のいずれかを選択します。
   - **Embedded MariaDB** を選択した場合は、ユーザー名とパスワードを入力して、**次へ** をクリックします。

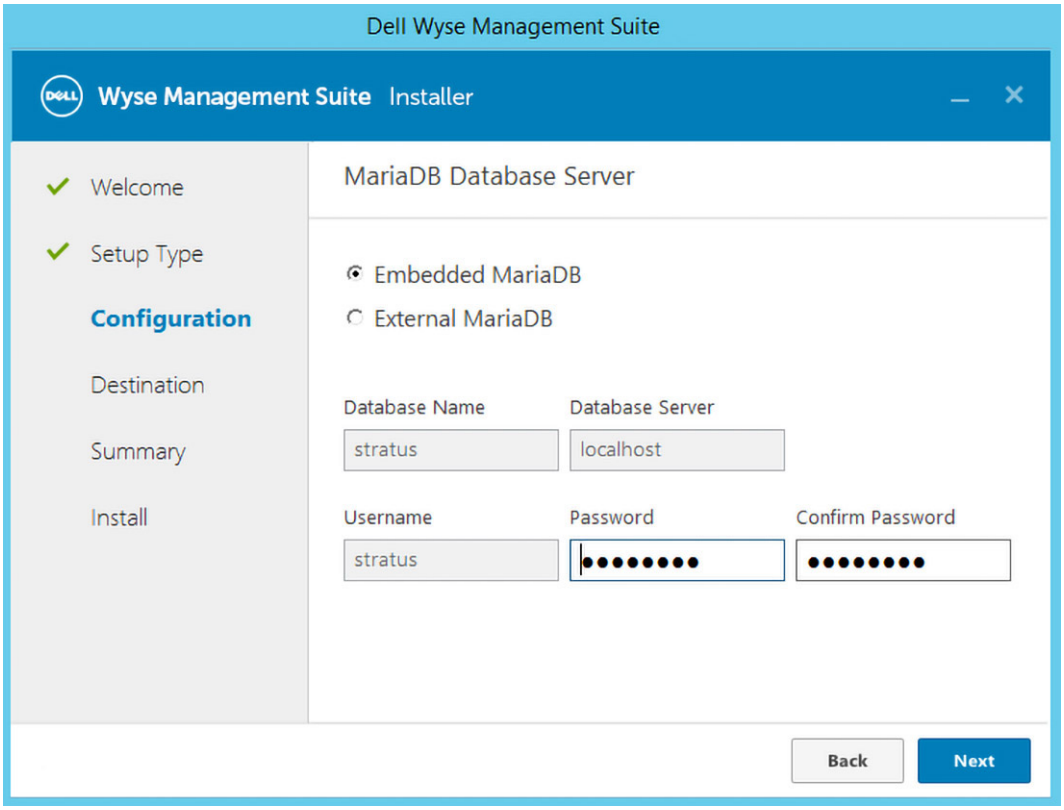

図 15. Embedded MariaDB

   - **External MariaDB** を選択した場合は、ユーザー名、パスワード、データベースサーバの詳細情報、ポートの詳細情報を入力して、**次へ** をクリックします。

     ポート フィールドにはデフォルトのポートが入力されますが、この値は変更できます。

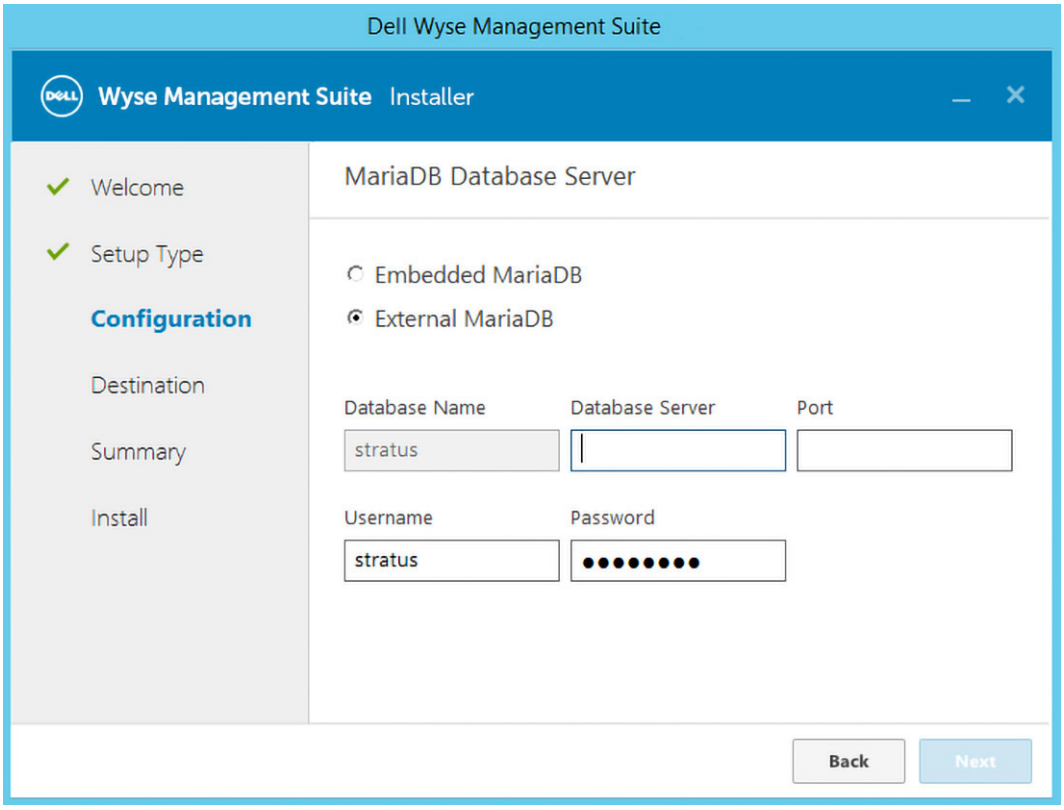

図 16. External MariaDB

4. **ポート** ページが表示され、次のデータベースのポートをカスタマイズできます。

- Apache Tomcat
- MySQL データベース
- Mongo データベース
- MQTT v3.1 Broker
- Memcached

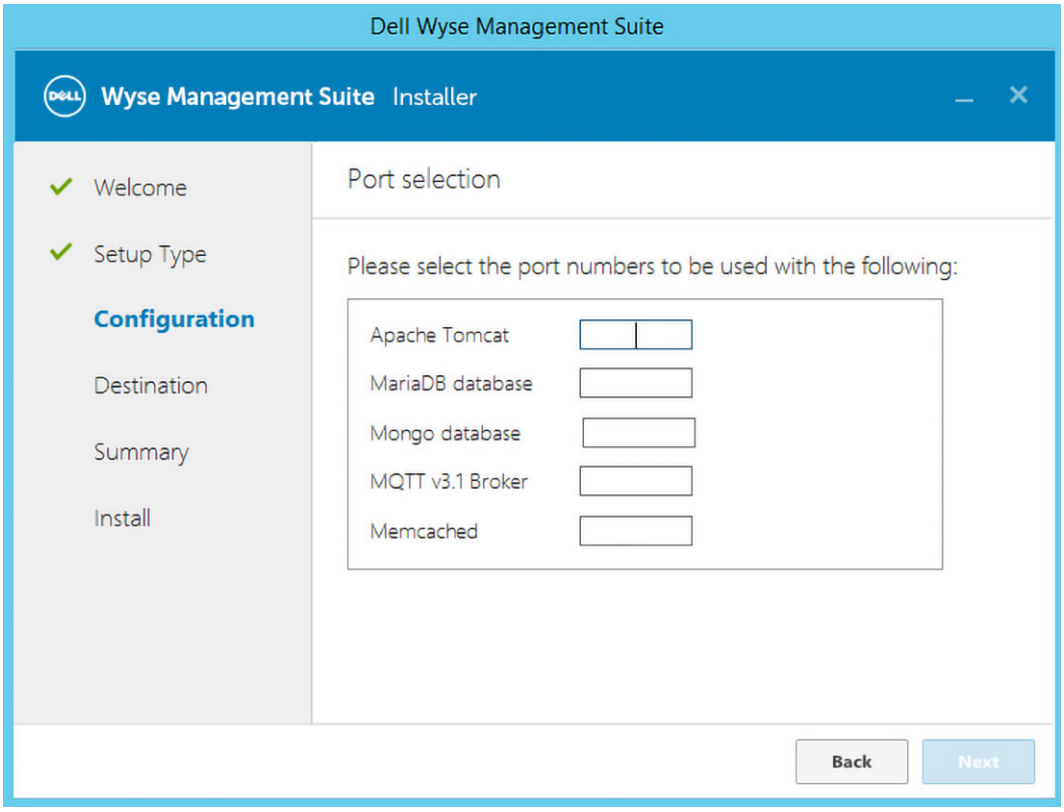

図 17. ポートの選択

メモ: Wyse Management Suite では、Maria データベースと Mongo データベースを次のように使用します。

Maria データベース：適切に定義された構造と正規化を必要とするデータのためのリレーショナルデータベース

Mongo データベース：パフォーマンスと拡張性のための No-SQL データベース

インストールを完了するには、WMS オンプレミスのインストールと初期セットアップ セクションの手順に従ってください。

C

Wyse Management Suite の機能マトリックス

次の表は、各サブスクリプションタイプでサポートされている機能についての情報を提供します。

表 4. 各サブスクリプションタイプの機能マトリックス

機能	Wyse Management Suite Standard	Wyse Management Suite の Pro プライベートクラウド	Wyse Management Suite の Pro クラウドエディション
Thin Client を管理するための拡張性の高いソリューション	最大 10,000 台のデバイスを利用可能	50,000 台以上のデバイス	100 万台以上のデバイス
ライセンスキー	不要	必須	必須
グループベースの管理	対応	対応	対応
複数レベルのグループと継承	対応	対応	対応
ポリシー管理の設定	対応	対応	対応
オペレーティングシステムのパッチおよび画像の管理	対応	対応	対応
継承後のデバイスレベルでの有効な設定の表示	対応	対応	対応
アプリケーションポリシー管理	対応	対応	対応
アセット、インベントリおよびシステム管理	対応	対応	対応
自動デバイス検出	対応	対応	対応
リアルタイムコマンド	対応	対応	対応
スマートスケジューリング	対応	対応	対応
アラート、イベント、および監査のログ	対応	対応	対応
セキュア通信 (HTTPS)	対応	対応	対応
ファイアウォールの内側にあるデバイスの管理	有限 *	有限 *	対応
モバイルアプリケーション	非対応	対応	対応
電子メールとモバイルアプリケーションを使用したアラート	非対応	対応	対応
アプリケーションのインストールをカスタマイズするためのサポートスクリプト	非対応	対応	対応
導入を簡素化して再起動を最少にするためのアプリケーションのバンドル	非対応	対応	対応
委任管理	非対応	対応	対応

機能	Wyse Management Suite Standard	Wyse Management Suite の Pro プライベートクラウド	Wyse Management Suite の Pro クラウドエディション
デバイス属性に基づいた動的グループの作成と割り当て	非対応	対応	対応
2 要素認証	対応	対応	対応
役割ベース管理のための Active Directory の認証。	非対応	対応	対応
マルチテナント	非対応	対応	対応
エンタープライズグレードのレポート	非対応	対応	対応
複数リポジトリ	非対応	対応	対応
サポートされるプラットフォーム上のハードウェアポートの有効化 / 無効化	非対応	対応	対応
サポートされるプラットフォームでの BIOS の設定	非対応	対応	対応
ポリシー設定のエクスポートとインポート	非対応	対応	対応
アプリケーション ポリシーへのリポジトリー割り当て	非対応	対応	対応
シン クライアントのシャットダウン コマンド	対応	対応	対応
Wyse Management Suite コンソールのタイムアウト	非対応	対応	対応
ポリシーの順序	非対応	対応	対応
オペレーティング システムに応じてアプリケーションの選択を合理化	対応	対応	対応
エイリアスを設定するオプション	非対応	対応	対応

メモ: * は、セキュアなファイアウォール作業環境でのみ、Wyse Management Suite を使用して、デバイスを管理できることを示します。ファイアウォール設定の範囲外では、Thin Client を管理できません。

D

Wyse Management Suite ファイル リポジトリーへのアクセス

ファイルリポジトリは、**ファイル**が保存されて整理されている場所です。Wyse Management Suite には次の 2 つのリポジトリタイプがあります。

- **ローカルリポジトリ** - Wyse Management Suite のプライベートクラウドのインストール中、Wyse Management Suite インストーラにローカルリポジトリのパスを指定します。インストール後、**ポータル管理** > **ファイルリポジトリ** の順に移動して、ローカルリポジトリを選択します。リポジトリの設定を表示および編集するには、**編集** オプションをクリックします。
- **Wyse Management Suite リポジトリー** - Wyse Management Suite のパブリック クラウドにログインし、**[ポータル管理]** > **[ファイル リポジトリー]** の順に移動して、Wyse Management Suite リポジトリーのインストーラーをダウンロードします。インストール後、必要な情報を指定して、Wyse Management Suite リポジトリを Wyse Management Suite 管理サーバに登録します。

[**自動レプリケーション**] オプションを有効にして、任意のファイル リポジトリーに追加されたファイルを他のリポジトリーにレプリケートできます。このオプションを有効にすると、警告メッセージが表示されます。[**既存ファイルのレプリケーション**] チェックボックスを選択して、既存のファイルをファイル リポジトリーにレプリケートできます。

リポジトリーがすでに登録されている場合に、[**既存ファイルのレプリケーション**] オプションが適用されます。新しいリポジトリーが登録されると、すべてのファイルが新しいリポジトリーにコピーされます。[**イベント**] ページでファイルのレプリケーション ステータスを表示できます。

メモ:

- **イメージ プル テンプレートは、他のリポジトリーに自動的にレプリケートされません。これらのファイルは手動でコピーする必要があります。**
- **ファイルのレプリケーション機能は、Wyse Management Suite 2.0 以降のバージョンのリポジトリーでのみサポートされています。**
- **リモート リポジトリーの自己署名証明書を Wyse Management Suite サーバーにインポートすることはできません。リモート リポジトリーに対して CA 検証が有効になっている場合、リモート リポジトリーからローカル リポジトリーへのファイルのレプリケーションは失敗します。**

Wyse Management Suite リポジトリを使用するには、次の手順を実行します。

1. パブリッククラウドのコンソールから Wyse Management Suite リポジトリをダウンロードします。
2. インストールプロセスの後、アプリケーションを起動します。
3. Wyse Management Suite リポジトリ ページで、資格情報を入力して、Wyse Management Suite リポジトリを Wyse Management Suite サーバに登録します。
4. **パブリック WMS 管理ポータルへの登録** オプションを有効にする場合は、リポジトリを Wyse Management Suite のパブリッククラウドに登録することができます。
5. **ファイルの同期** オプションをクリックして、ファイルの同期コマンドを送信します。
6. **チェックイン** をクリックしてから、**コマンドの送信** をクリックして、デバイスにデバイス情報コマンドを送信します。
7. **登録解除** オプションをクリックして、オンプレミスサービスを登録解除します。
8. **編集** をクリックしてファイルを編集します。
9. **ファイルの同時ダウンロード** オプションのドロップダウンリストから、ファイルの数を選択します。
10. **Wake on LAN** オプションを有効または無効にします。
11. **ファイルの高速アップロードおよびダウンロード (HTTP)** オプションを有効または無効にします。
    - HTTP が有効な場合、ファイルのアップロードおよびダウンロードは HTTP 経由で実行されます。
    - HTTP が有効ではない場合、ファイルのアップロードおよびダウンロードは HTTPS 経由で実行されます。
12. **証明書の検証** チェックボックスを選択して、パブリッククラウドの CA 検証を有効にします。

    メモ: Wyse Management Suite サーバからの CA 検証が有効になっている場合、クライアントに証明書が存在する必要があります。アプリおよびデータ、イメージのプル / プッシュなど、すべての操作が成功します。クライアントに証明書が存在しない場合、Wyse Management Suite サーバの イベント ページに、「認証局の検証に失敗しました」という汎用監査イベントメッセージが表示されます。アプリおよびデータ、イメージのプル / プッシュなど、すべての操作が失敗します。ま

た、**Wyse Management Suite** サーバーからの **CA** 検証が無効になっている場合、サーバーおよびクライアントからの通信はセキュアなチャネルで、証明書署名の検証を行わずに実行されます。

13. 所定のボックスにメモを追加します。
14. **設定の保存** をクリックします。

E

DHCP オプションタグの作成および設定

メモ: お客様のセキュリティ環境については、「Wyse Device Agent」を参照してください。

DHCP オプションタグを作成するには、次の手順を実行します。

1. サーバマネージャ を開きます。
2. **ツール** に移動して、**DHCP オプション** をクリックします。
3. **[FQDN]** > **[IPv4]** の順に移動して、[**IPv4**] を右クリックします。

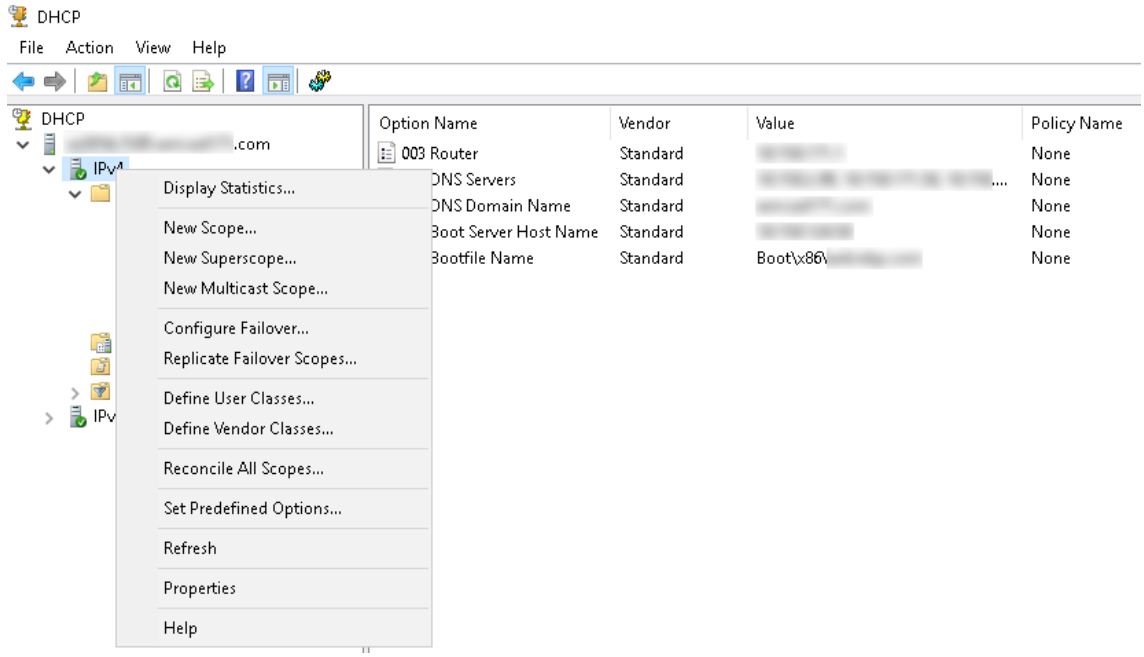

図 18. DHCP

4. **既定のオプションの設定** をクリックします。
   既定のオプションと値 ウィンドウが表示されます。
5. **オプションクラス** ドロップダウンリストから、**DHCP 標準オプション** 値を選択します。

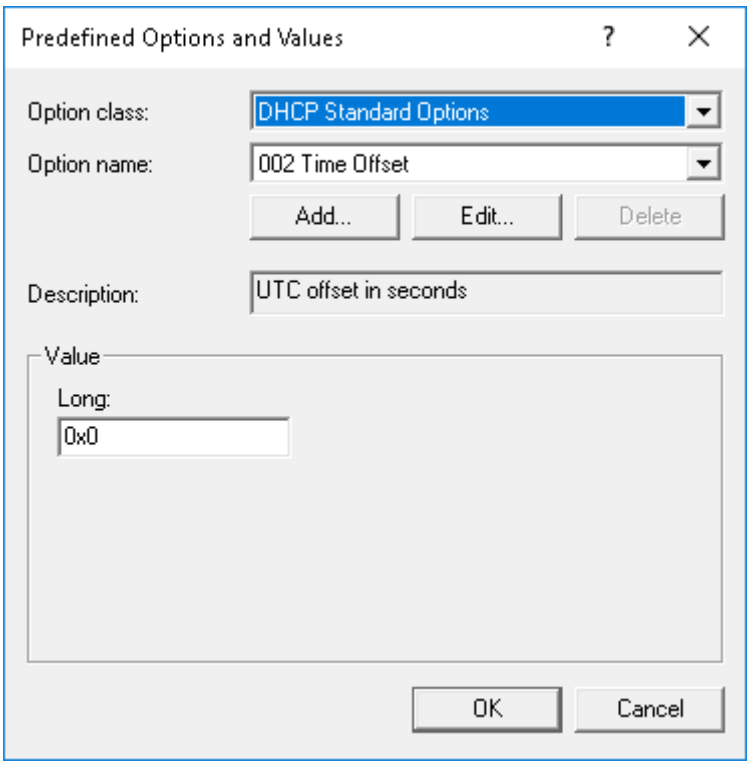

図 19. 既定のオプションと値

6. **追加** をクリックします。
   オプションタイプ ウィンドウが表示されます。

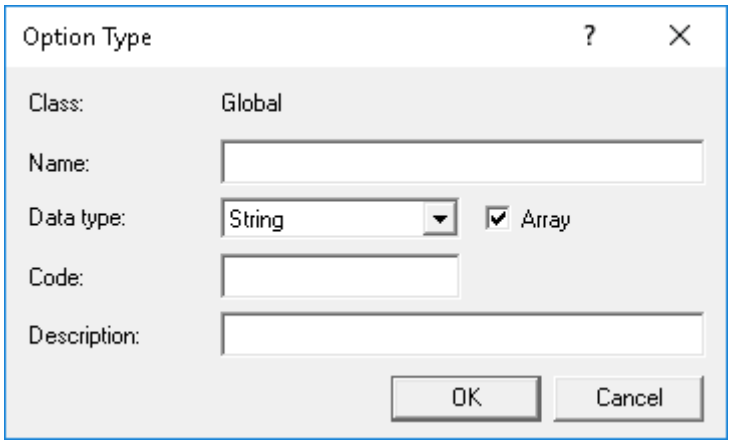

図 20. オプションのタイプ

オプションは、DHCP サーバのサーバオプション、または DHCP スコープのスコープオプションのいずれかに追加する必要があります。

DHCP オプションタグの設定

- 165 Wyse Management Suite サーバ URL オプションタグを作成するには、次の手順を実行します。
  1. 次の値を入力し、**OK** をクリックします。
     - 名前 - WMS
     - データタイプ - 文字列
     - コード - 165
     - 説明 - WMS_Server
  2. 次の値を入力し、**OK** をクリックします。

     文字列 - `WMS FQDN`

     例：WMSServerName.YourDomain.Com:443

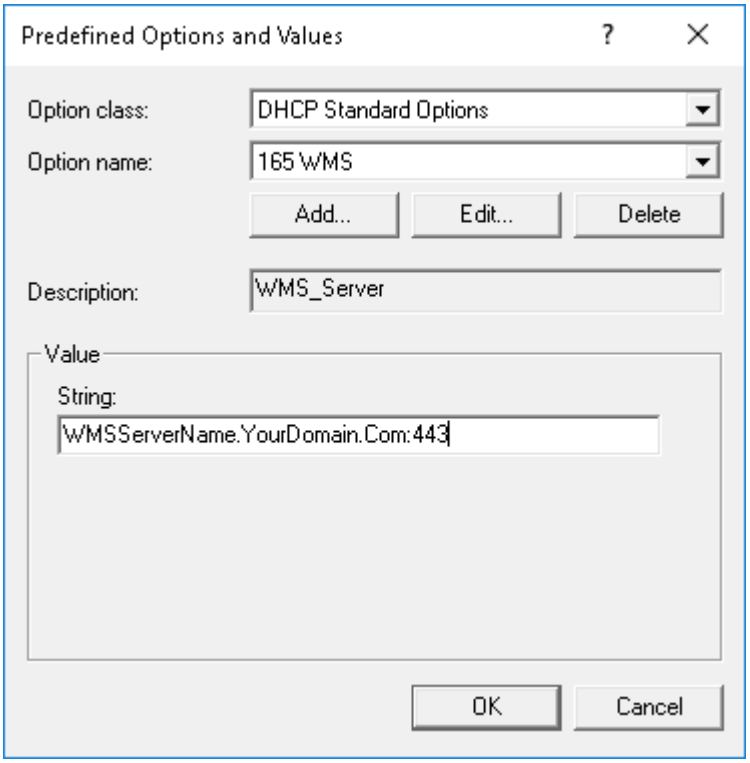

図 21. 165 Wyse Management Suite サーバ URL オプションタグ

- 166 MQTT サーバ URL オプションタグを作成するには、次の手順を実行します。

1. 次の値を入力し、**OK** をクリックします。
   - 名前 - MQTT
   - データタイプ - 文字列
   - コード - 166
   - 説明 - MQTT サーバ
2. 次の値を入力し、**OK** をクリックします。

   文字列 - `MQTT FQDN`

   例：WMSServerName.YourDomain.Com:1883。

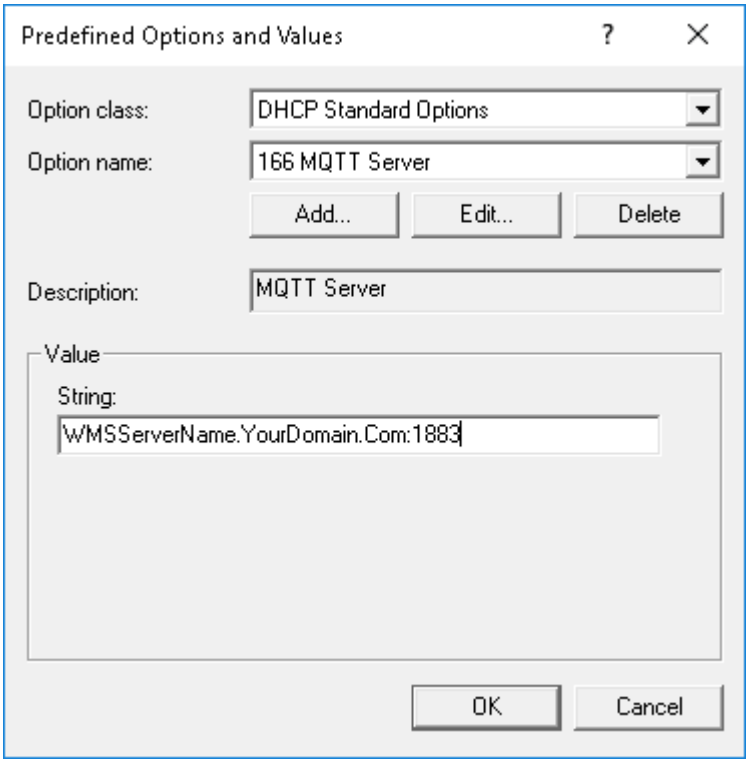

図 22. 166 Wyse Management Suite サーバ URL オプションタグ

- 167 Wyse Management Suite CA 検証サーバ URL オプションタグを作成するには、次の手順を実行します。

1. 次の値を入力し、**OK** をクリックします。
   - 名前 - CA 検証
   - データタイプ - 文字列
   - コード - 167
   - 説明 - CA 検証
2. 次の値を入力し、**OK** をクリックします。

   文字列 - TRUE/FALSE

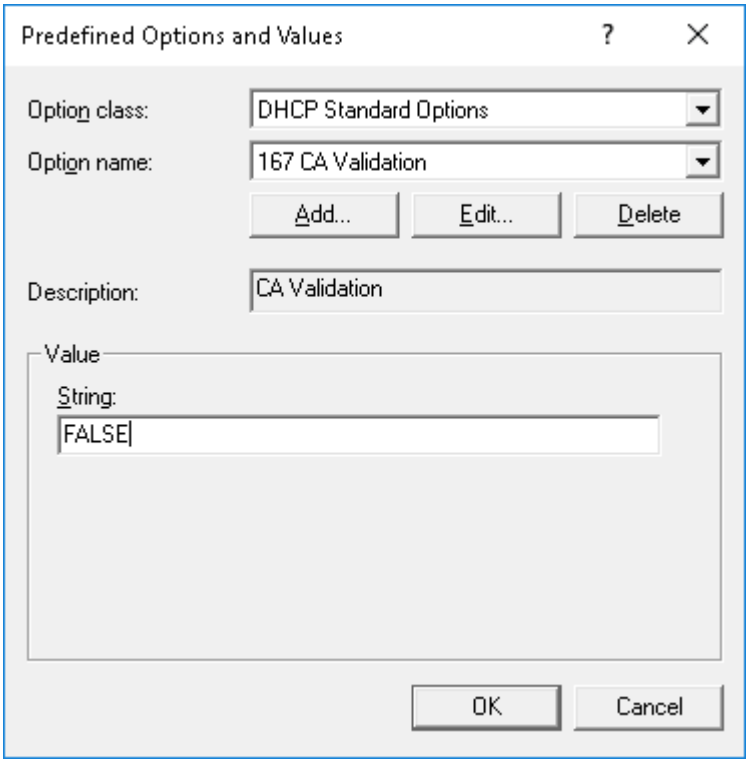

図 23. 167 Wyse Management Suite サーバ URL オプションタグ

- 199 Wyse Management Suite CA グループトークンサーバ URL オプションタグを作成するには、次の手順を実行します。

1. 次の値を入力し、**OK** をクリックします。
   - 名前 - グループトークン
   - データタイプ - 文字列
   - コード - 199
   - 説明 - グループトークン
2. 次の値を入力し、**OK** をクリックします。

   文字列 - defa-quarantine

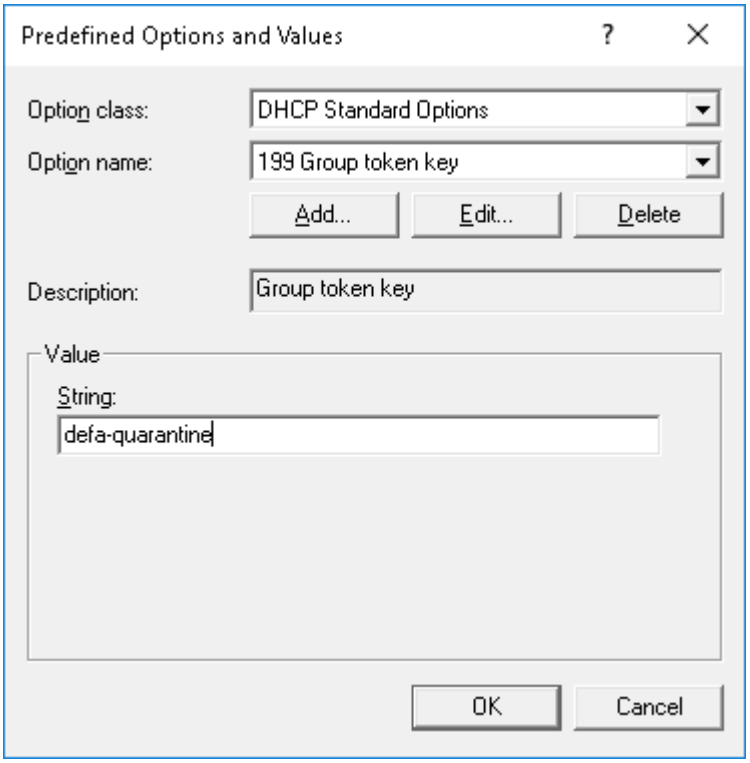

図 24. 199 Wyse Management Suite サーバ URL オプションタグ

F

DNS SRV レコードの作成および設定

メモ: お客様のセキュリティ環境については、「Wyse Device Agent」を参照してください。

DNS SRV レコードを作成するには、次の手順を実行します。

1. サーバマネージャ を開きます。
2. **ツール** に移動して、**DNS オプション** をクリックします。
3. **DNSDNS サーバホスト名前方参照ゾーンドメイン _tcp** の順に移動し、**_tcp option** を右クリックします。

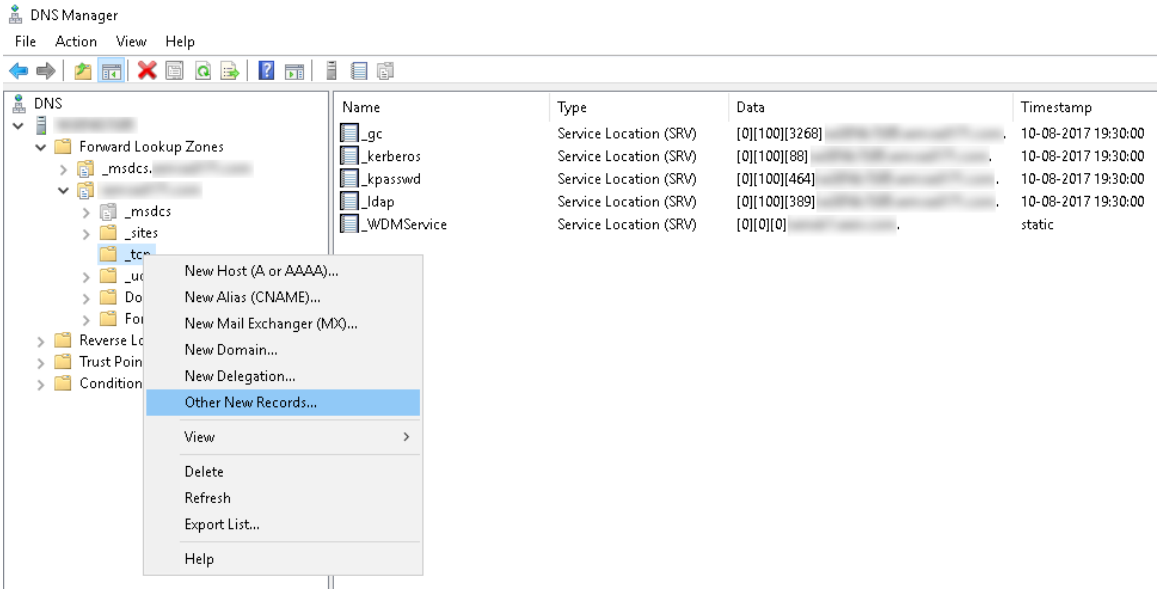

図 25. DNS マネージャ

4. **その他の新しいレコード** をクリックします。
   リソースレコードの種類 ウィンドウが表示されます。
5. **サービスロケーション (SRV)** を選択し、**レコードの作成** をクリックして、次の手順を実行します。

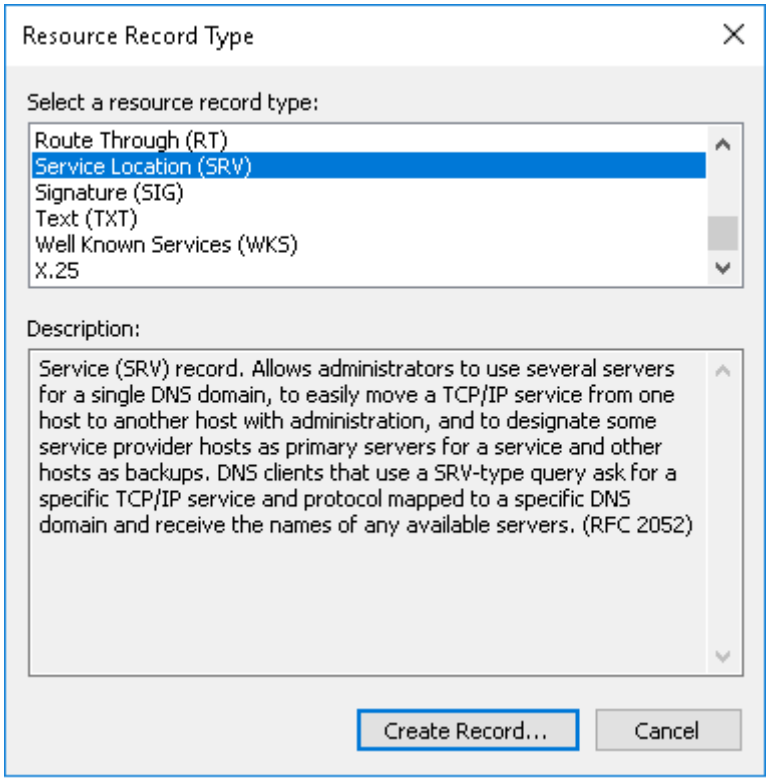

図 26. リソースレコードの種類

a) Wyse Management Suite サーバのレコードを作成するには、次の詳細を入力し、**OK** をクリックします。

- サービス - _WMS_MGMT
- プロトコル - _tcp
- ポート番号 - 443
- このサービスを提供するホスト - WMS サーバの FQDN

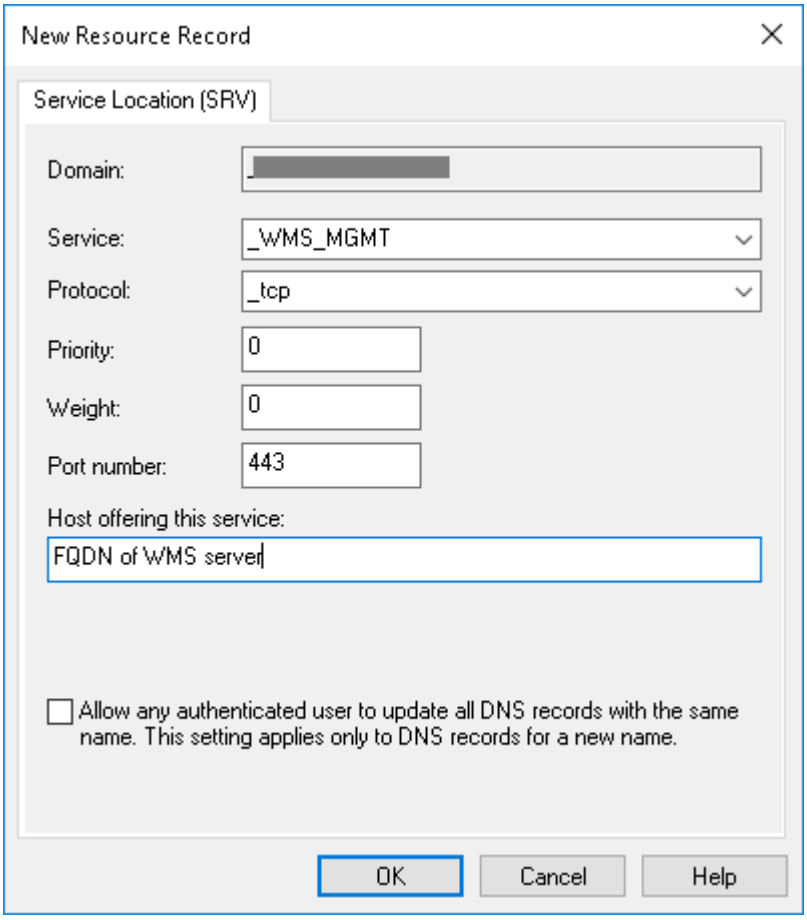

図 27. _WMS_MGMT サービス

b) MQTT サーバレコードを作成するには次の値を入力し、**OK** をクリックします。

- サービス - _WMS_MQTT
- プロトコル - _tcp
- ポート番号 - 1883
- このサービスを提供するホスト - MQTT サーバの FQDN

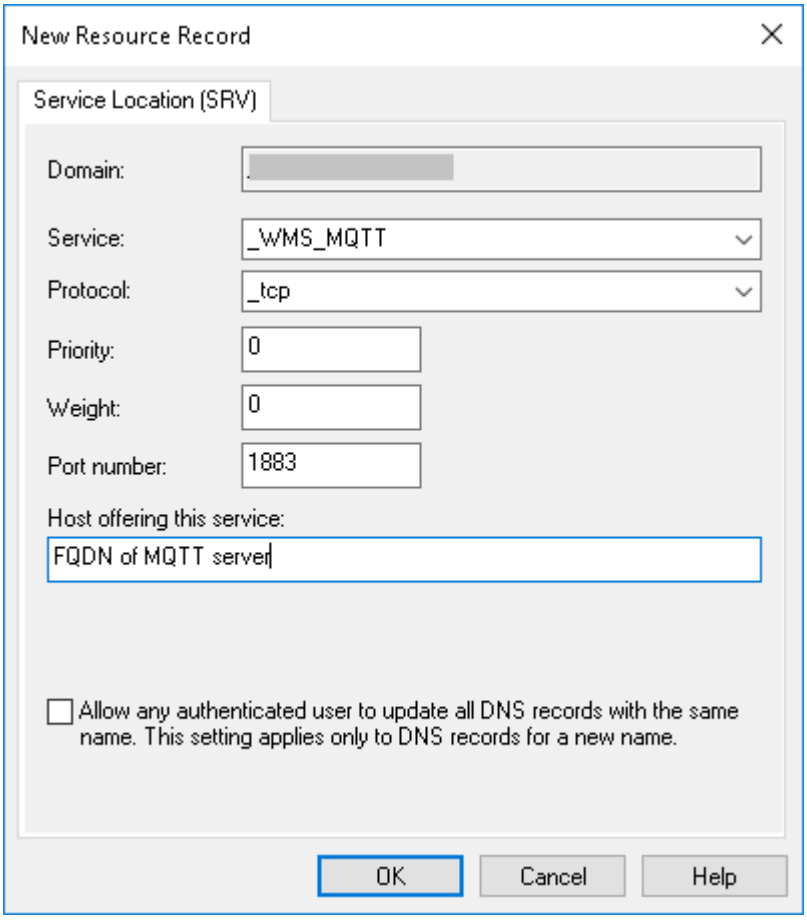

図 28. _WMS_MQTT サービス

6. **DNSDNS サーバホスト名前方参照ゾーンドメイン** の順に移動し、ドメインを右クリックします。
7. **その他の新しいレコード** をクリックします。
8. **テキスト（TXT）** を選択し、**レコードの作成** をクリックして、次の手順を実行します。

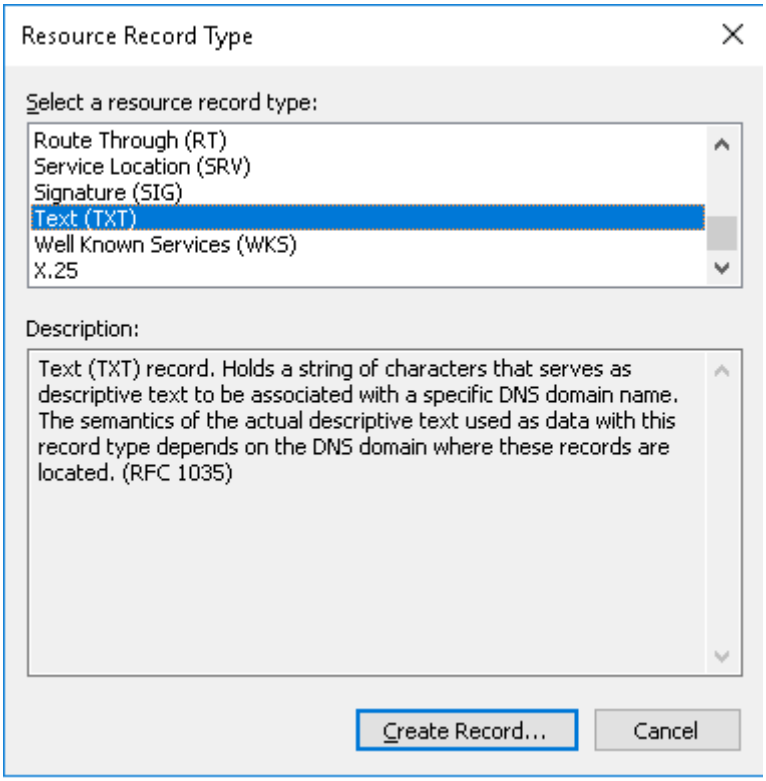

図 29. リソースレコードの種類

a) Wyse Management Suite グループトークンのレコードを作成するには、次の値を入力し、**OK** をクリックします。

- レコード名 - _WMS_GROUPTOKEN
- テキスト - WMS グループトークン

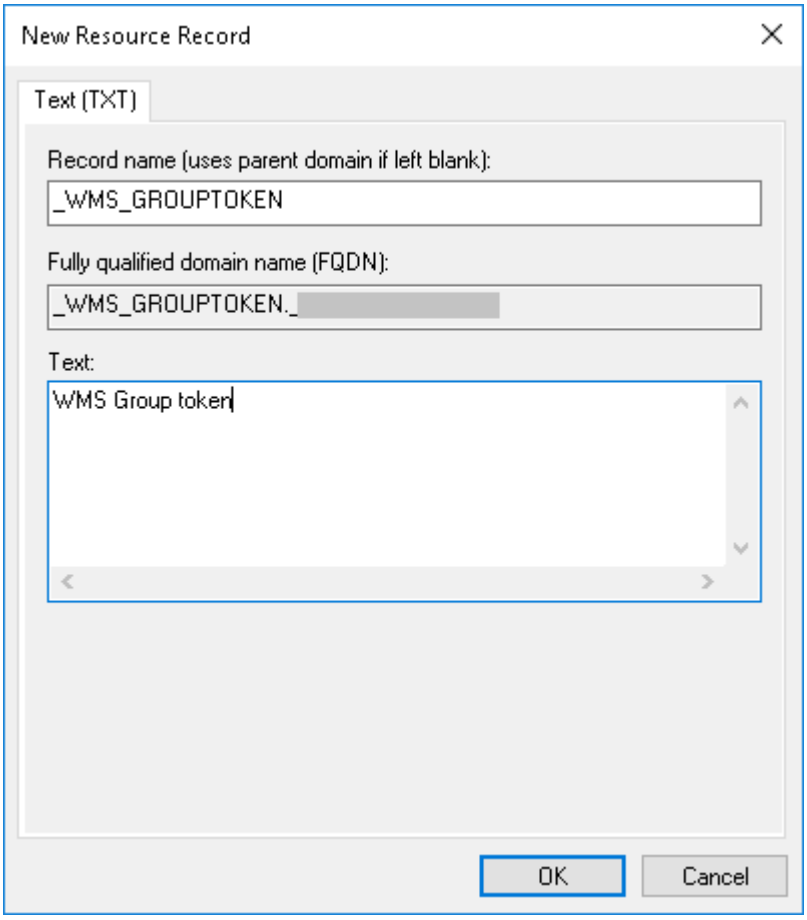

図 30. _WMS_GROUPTOKEN レコード名

b) Wyse Management Suite CA 証明書のレコードを作成するには、次の値を入力して、**OK** をクリックします。

- レコード名 - _WMS_CAVALIDATION
- テキスト - TRUE/FALSE

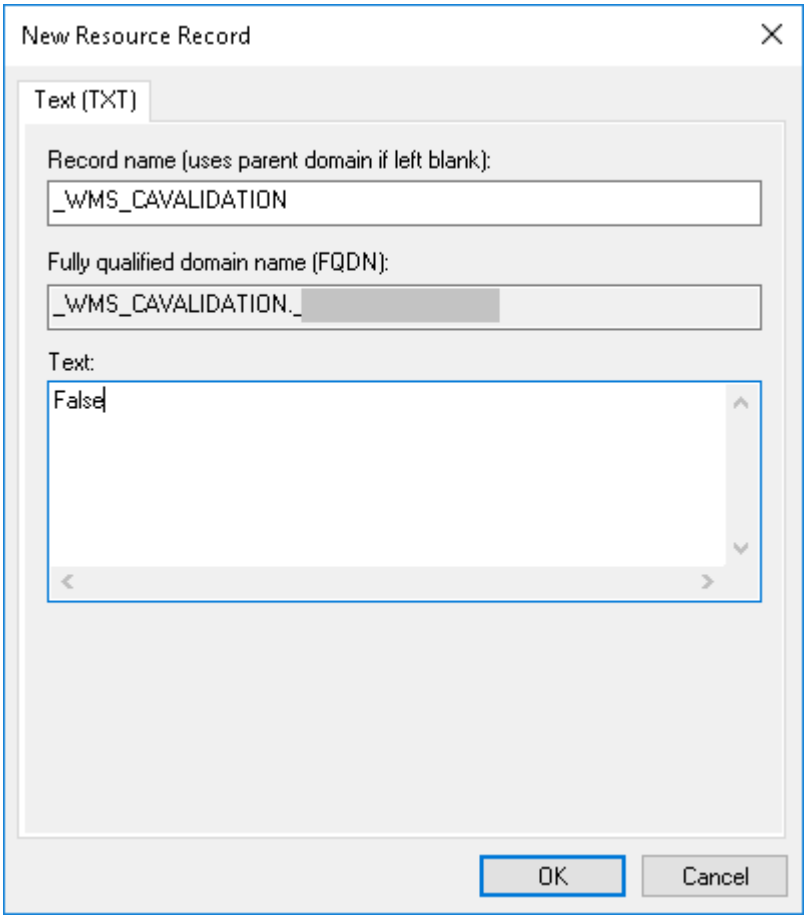

図 31. _WMS_CAVALIDATION レコード名

G

高度なアプリケーションポリシーの作成とシンクライアントへの導入

Thin Client に高度なアプリケーションポリシーを導入するには、次の手順を実行します。

1. 導入するアプリケーションおよびプリ / ポストインストールスクリプト (必要な場合) を、ローカルリポジトリまたは Wyse Management Suite リポジトリの `thinClientApps` フォルダにある Thin Client にコピーします。
2. **アプリとデータ** > **AppInventory** の順に移動し、**Thin Client** を選択して、アプリケーションが登録されているかどうかを確認します。
3. **アプリポリシー** の下で **Thin Client** をクリックします。
4. **詳細なポリシーの追加** をクリックします。
5. 新しいレプリケーションポリシーを作成するには、次の手順を実行します。
   a. **ポリシー名**、**グループ**、**タスク**、および **デバイスタイプ** を入力します。
   b. **アプリの追加** をクリックし、**TC アプリ** の下で 1 つ、または複数のアプリケーションを選択します。各アプリケーションについて、**プリインストール**、**ポストインストール**、および **パラメータのインストール** の下で、プレ / ポストインストールスクリプトを選択できます。アプリケーションが正常にインストールされた後にシステムを再起動したい場合は、**再起動** を選択します。
   c. このポリシーをすべてのサブグループに適用するには、**すべてのサブグループを含める** を選択します。
   d. 特定のオペレーティングシステムまたはプラットフォームにこのポリシーを展開する場合は、**OS サブタイプフィルタ** または **プラットフォームフィルタ** を選択します。
   e. タイムアウト では、クライアントにメッセージが表示され、インストール開始前に作業を保存する時間を提供します。メッセージダイアログをクライアントに表示する時間 (分) を指定します。
   f. このポリシーを、Wyse Management Suite に登録されていて、選択されたグループに属しているか、または選択されたグループに移動されたデバイスに自動的に適用する場合は、[**ポリシーを自動的に適用**] ドロップダウン リストから [**新規デバイスにポリシーを適用**] を選択します。

      メモ: チェックイン時にポリシーをデバイスに適用 を選択した場合、ポリシーは、Wyse Management Suite server へのチェックイン時に自動的にデバイスに適用されます。
   g. 定義した値の時間が経過した後にインストール プロセスを停止するには、[**アプリケーションのインストール タイムアウト**] フィールドに時間 (分) を指定します。
6. ポリシー実行の遅延を許可するには、**ポリシー実行の遅延を許可** チェックボックスを選択します。このオプションが選択されている場合、以下のドロップダウンメニューが有効になります。
   - **遅延あたりの最大時間** ドロップダウンメニューから、ポリシーの実行を遅らせることができる最大時間 (1 ~ 24 時間) を選択します。
   - **最大遅延** ドロップダウンメニューから、ポリシーの実行を遅らせることができる回数 (1 ~ 3) を選択します。
7. 最初に失敗したときにアプリケーションポリシーをキャンセルするには、**アプリの依存関係を有効にする** を選択します。このオプションが選択されていない場合、アプリケーションの失敗がポリシーの実行に影響します。
8. 新しいポリシーを作成するには、**保存** をクリックします。メッセージが表示され、管理者はグループに基づいてデバイスでこのポリシーをスケジュールできるようになります。デバイスにアプリケーションポリシーをすぐに、または **アプリポリシージョブ** ページでスケジュールされた日付と時刻にスケジュールするには、**はい** を選択します。

   アプリ / イメージポリシージョブは、次のタイミングで実行できます。

   a. **即時** - サーバは即時ジョブを実行します。
   b. **デバイスのタイムゾーン** - サーバは各デバイスのタイムゾーンに 1 つのジョブを作成し、デバイスのタイムゾーンの選択した日付 / 時刻にジョブをスケジュールします。
   c. **選択したタイムゾーン** -サーバは、指定されたタイムゾーンの日付および時刻に実行するように 1 つのジョブを作成します。
9. **プレビュー** をクリックして、次のページでジョブの作成をスケジュールします。
10. **ジョブ** ページにナビゲートして、ジョブのステータスを確認できます。

H

Windows Embedded Standard デバイスの手動登録

タスクバーの **WDA UI** アイコンを起動すると、Windows Embedded Standard デバイスを手動で登録できます。

1. 管理サーバとして、**Wyse Management Suite-WMS** を選択します。
2. 適切なテナントとグループ名を入力します。このフィールドを空白のままにすると、デバイスは管理対象外グループに登録されます。(オプション)
3. **登録** をクリックします。

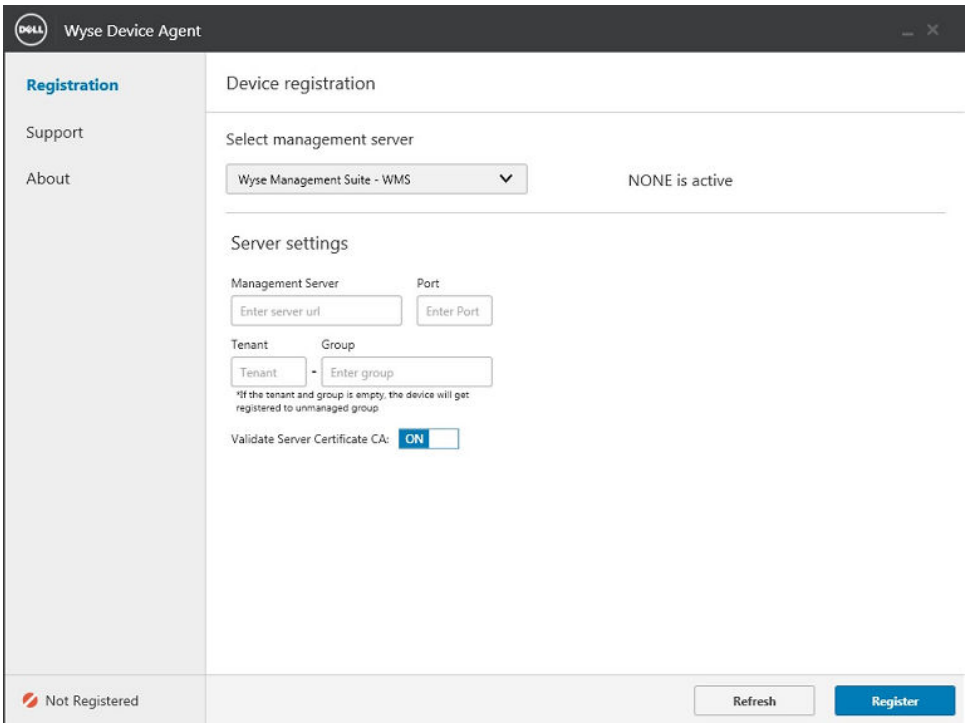

図 32. デバイスの登録

I

ThinOS 8.x デバイスの手動登録

1. Thin Client のデスクトップのメニューから、**[システム セットアップ]** > **[一元設定]** の順に移動します。
   一元設定 ウィンドウが表示されます。
2. 管理者が対象グループに対して設定した**グループ登録キー**を入力します。
3. [**WMS の詳細設定の有効化**] チェック ボックスを選択します。
4. [**WMS サーバー**] フィールドに、Wyse Management Server の URL を入力します。
5. ライセンスのタイプに基づき、CA 検証を有効または無効にします。パブリック クラウドの場合、[**CA 検証を有効にする**] チェック ボックスを選択します。プライベート クラウドの場合、Wyse Management Suite サーバーに既知の認証局の証明書をインポート済みであれば、[**CA 検証を有効にする**] チェック ボックスを選択します。

   プライベートクラウドで CA 検証オプションを有効にするには、同じ自己署名証明書を ThinOS デバイスにもインストールする必要があります。自己署名証明書を ThinOS デバイスにインストールしていない場合は、[**CA 検証を有効にする**] チェック ボックスを選択しないでください。登録後に、Wyse Management Suite を使用して証明書をデバイスにインストールしてから、CA 検証オプションを有効にしてください。
6. 設定を確認するには、**キーの検証** クリックします。

   メモ: キーが検証されない場合は、入力したグループキーと WMS サーバの URL を確認してください。記載されたポートがネットワークでブロックされていないことを確認します。デフォルト ポートは 443 と 1883 です。
7. **OK** をクリックします。

   メモ: [登録の検証] オプションが有効になっている場合、手動または自動検出されたデバイスは、[デバイス] ページで [登録の検証保留中] 状態になります。テナントは、[デバイス] ページで 1 台または複数のデバイスを選択して、登録を検証することができます。デバイスは検証された後、目的のグループに移動されます。

   デバイスが、Wyse Management Suite に登録されました。

J

ThinOS 9.x デバイスの手動登録

1. Thin Client のデスクトップのメニューから、**[システム セットアップ]** > **[一元設定]** の順に移動します。
   一元設定 ウィンドウが表示されます。
2. 管理者が対象グループに対して設定した**グループ登録キー**を入力します。
3. [**WMS の詳細設定の有効化**] チェック ボックスを選択します。
4. [**WMS サーバー**] フィールドに、Wyse Management Server の URL を入力します。
5. ライセンスのタイプに基づき、CA 検証を有効または無効にします。パブリッククラウドの場合、**CA 検証を有効にする** チェックボックスを選択してください。プライベートクラウドの場合、周知の認証局から Wyse Management Suite サーバに証明書をインポート済みであれば、**CA 検証を有効にする** チェックボックスを選択してください。

   プライベートクラウドで CA 検証オプションを有効にするには、同じ自己署名証明書を ThinOS デバイスにもインストールする必要があります。自己署名証明書を ThinOS デバイスにインストールしていない場合は、[**CA 検証を有効にする**] チェック ボックスを選択しないでください。登録後に、Wyse Management Suite を使用して証明書をデバイスにインストールしてから、CA 検証オプションを有効にしてください。
6. 設定を確認するには、**キーの検証** クリックします。

   メモ: キーが検証されない場合は、入力したグループキーと WMS サーバの URL を確認してください。記載されたポートがネットワークでブロックされていないことを確認します。デフォルト ポートは 443 と 1883 です。

   アラートウィンドウが表示されます。
7. **OK** をクリックします。
8. [**一元設定**] ウィンドウで [**OK**] をクリックします。

   メモ: [登録の検証] オプションが有効になっている場合、手動または自動検出されたデバイスは、[デバイス] ページで [登録の検証保留中] 状態になります。テナントは、[デバイス] ページで 1 台または複数のデバイスを選択して、登録を検証することができます。デバイスは検証された後、目的のグループに移動されます。

   デバイスが、Wyse Management Suite に登録されました。

K

Linux デバイスの手動登録

WDA UI アイコン（**システム設定**）を起動すると、Linux デバイスを手動で登録できます。

1. **WMS サーバ** の詳細を入力します。
2. 適切なテナントとグループ名を入力します。このフィールドを空白のままにすると、デバイスは管理対象外グループに登録されます。（オプション）
3. **登録** をクリックします。

   デバイスが、Wyse Management Suite コンソールに登録されました。

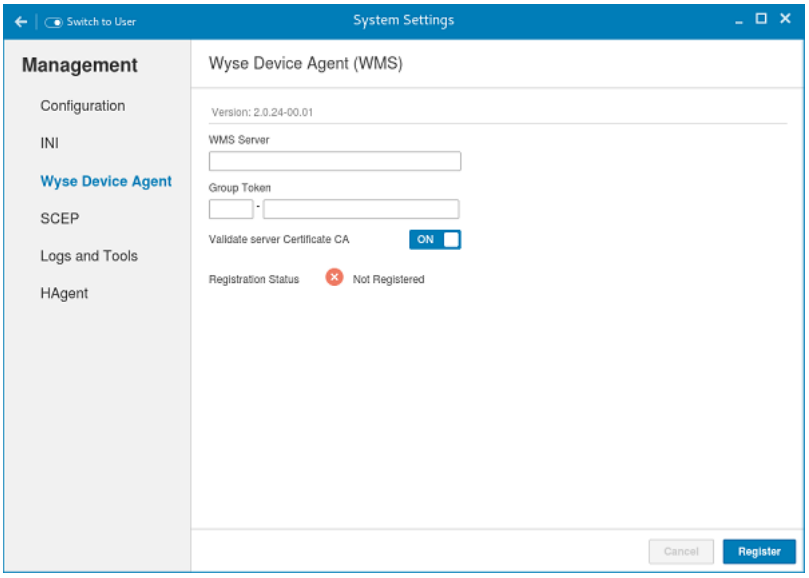

図 33. デバイスの登録

L

用語と定義

次の表は、この文書で使用される用語とその定義の一覧です。

表 5. 用語と定義

用語	定義
プライベートクラウド	組織のデータセンターのプライベートなクラウドにインストールされている Wyse Management Suite サーバ。
WDA	デバイス上の Wyse Device Agent で、サーバとクライアント間の通信のためのエージェントとして機能。
ローカルリポジトリ	Wyse Management Suite サーバによりデフォルトでインストールされるアプリケーション、オペレーティングシステムイメージ、ファイルのリポジトリ。
リモートリポジトリ	コンテンツ送信のための、地理的に離れた場所の拡張性および信頼性のためにオプションでインストールできるアプリケーション、オペレーティングシステムイメージ、ファイルのリポジトリ。
パブリッククラウド	利便性とコスト節約のためにパブリッククラウド上にホストされる Wyse Management Suite。インフラストラクチャおよびソフトウェアのセットアップと保守が不要。
アドオン / アプリ	ベースのビルドには含まれておらず、オプションのコンポーネントとして提供されるコンポーネントまたはパッケージ。このコンポーネントまたはパッケージは、管理ソフトウェアから導入できます。 例：VMware や Citrix の最新接続ブローカ
オンプレミス	組織のデータセンターのプライベートなオンプレミスにインストールされている Wyse Management Suite サーバ。
テナント	Wyse Management Suite に対する特定権限による共通アクセスを共有するユーザーのグループ。 各カスタマーに対して、管理スイートにアクセスするための固有のキーが割り当てられます。
ユーザー	ユーザーとは、ローカル管理者、グローバル管理者、またはビューアのこと。Wyse Management Suite にログインするために、グループユーザーおよび Active Directory からインポートされたユーザーに、グローバル管理者、グループ管理者およびビューアの役割を割り当てます。ユーザーは、割り当てられた役割に基づいて、操作を実行するための許可が付与されます。